

秘

大正十四年四月二十日調

獨逸賠償染料取得ニ關スル調査

條約局第三課

一、賠償染料取得並其ノ打切ニ關スル經過

第一 平租條約ノ規定

第二 賠償染料引渡ノ實況及帝國ノ分配參加

第三 賠償染料取得打切ノ事情

- 一、賠償染料取得並其ノ打切ニ關スル經過
- 二、賠償染料取得再開ニ關スル經過
- 三、「ドーズ」年次金第一年度分中ノ本邦賠償取分額取得ノ經過
- 四、千九百二十五年以降ノ生産染料取得ニ關スル交渉經過

一、賠償染料取得並其ノ打切ニ關スル經過
二、賠償染料取得再開ニ關スル經過
三、「ドーズ」年次金第一年度分中ノ本邦賠償取分額取得ノ經過
四、千九百二十五年以降ノ生産染料取得ニ關スル交渉經過

賠償染料取得ニ關スル經過

第一 平和條約ノ規定

彌逸ハ平和條約ニ於テ染料其ノ他ノ化學製品ヲ賠償ニ充ツルコトニ同意ス右規定ノ大要左ノ如シ（第二三六條及附屬書六參照）

(イ) 平和條約實施ノ日ニ於テ彌逸國ニ現存シ又ハ其ノ管理ニ屬スル各種染料及化學藥品貯藏額總量ノ各百分ノ五十ヲ超エサル範圍内ニ於テ委員會ノ指定ニ從ヒ染料及化學藥品ヲ引渡スコト

(ロ) 尙一九二五年一月一日ニ至ル迄毎月六月ノ期間各前六月間ニ於ケル彌逸國ノ全産額ノ百分ノ二十五ヲ超エサル限度ニ於テ委員會ノ指定ニ從ヒ百分ノ二十五ヲ超エサル限度ニ於テ各種特定ノ染料及化學藥品ヲ引渡スコト

但シ上記各前六月間ノ生産額カ普通ノ生産額ヨリ少カリシコトヲ認ムルトキハ何レノ場合ニ於テモ其ノ要求額ヲ普通生産額ノ百分ノ二十五ト爲スコトヲ得

(ハ) 注文及引渡ノ方法及時期其ノ他ノ一切ノ細目竝本協定ノ下ニ發生スル他ノ一切ノ問題ハ賠償委員會之ヲ決定ス

右ノ如キ規定ヲ平和條約中ニ設ケタルハ英米佛等ノ諸國ニ於テハ戰時中獨逸ヨリ染料及藥品ノ輸入杜絶シタル爲化學工業勃興シタルモ未タ完成ノ域ニ達セサリシヲ以テ獨逸ヨリ輸入セサルヘカラスアルモノアリ其ノ或種ノモノハ緊急ノ必要ニ迫ラレ居タル處賠償勸定ヲ利用スルトキハ何等ノ對價ヲモ支拂ハスシテ輸入シ得ル利益アリシニ依ルナリ(尤モ賠償勸定ニ於テハ借記セラルヘシ)

而シテ毎月引續キ引渡サルル額ヲ二割五分ニ制限シタルハ英米佛
 三國ハ戦前獨逸製造染料藥品ノ約四割ヲ消費シ居タル處戦後自國
 ニ於テ少クモ其ノ五割ハ製造シ得ルニ至レルヲ以テ其ノ不足額ハ
 獨逸ノ約二割ニ當リ平和條約ニ於テ二割五分ヲ要求スルトキハ三
 國ハ自國ノ需要ヲ満足シ得ヘク其ノ残りヲ必要ニ應シ他ノ聯合國
 ニ割當テ得ヘシト考ヘタルモノナルヘク又引渡期間ヲ千九百二十
 五年一月一日迄ニ限リタルハソレ迄ニ染料藥品ハ悉ク之ヲ自國ニ
 於テ製造シ得ヘシトノ自信ヲ有シタルニ依ルモノノ如ク思考セラ
 ル

（以下は極く淡く、ほとんど不可読な文字が並ぶ。これは裏紙の透りか、あるいは別の文書からの転写と思われる。内容は主として外交交渉の経過や条約の成立に関するものであると推測される。）

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is mostly illegible due to fading and blurring.

第三 賠償染料引渡ノ實況及帝國ノ分配參加

聯合國僑ニ於テ染料ノ必要緊急ナルモノアリシ爲平和條約ノ效力
發生前米英佛伊白五國代表者ヲ以テ特別委員會ヲ組織シ獨逸トノ
交渉ヲ開始スルコトトナセリ其ノ結果不取敢一九一九年十一月三
日プロトコール締結セラレ獨逸貯藏染料中ヨリ五千二百噸ヲ限リ
左ノ道分配スルコトトナレリ

米國	一五〇〇噸
英國	一五〇〇噸
佛國	一〇〇〇噸
伊太利	七〇〇噸
白國	五〇〇噸

然ルニ獨逸ノ一九一九年八月十五日現在貯藏量ハ二一五二二七二
 三貯ニシテ條約ニ依リ引渡ス義務アルモノハ其ノ半額即チ一〇七
 六二三六一貯ナリ故ニ前記協定額以外ニモ引續キ注文發セラレ一
 九二〇年九月一日前ニ其ノ額總計ハ八八六五〇貯ニ達セリ
 獨逸ハ平和條約ニ依レハ又平和條約實施ノ日ヨリ千九百二十五年
 一月一日ニ至ル迄其ノ生産額ノ二割五分ヲ引渡ス義務ヲ有ス右ニ
 關シテハ一九二〇年一月三十日聯合國側ト獨逸側トノ間ニ假協定
 締結セラレ聯合國側ノ注文ニ應シ獨逸ヨリ染料ノ引渡ヲナスコト
 トナレリ而シテ右染料ノ分配ニ關シテハ前掲ノ英米佛伊白五國間
 ニ於ケル割合ヲ使用スルコトトナレリ
 右染料取得計畫ニ付帝國政府ハ何等ノ相談ニモ與ルコトナカリシ

カ一九二〇年一月二十八日賠償委員會書記次長 W. H. B. B. B. カ好意ヲ
 以テ森委員ニ送付シタル書類ヨリ之ニ氣付キ事情右ノ如クナル以
 上猶諒スヘキニ非ストシ取急キ帝國政府モ賠償トシテ染料ヲ取得
 致度キニ付之ヲ考慮セラレ度キ旨申入レタリ
 右要求ニ關シテハ賠償委員會ニ於テ議論ヲ惹起シ法律部ニモ同付
 セラレタルカ結局日本ノ爲有利ニ解決シ既ニ分配計畫 定マレル
 既往ノモノニ廻及スルコトナカリシモ將來ノ分(主トシテ一九二
 〇年五月以降但シ獨逸ノ一九一九年八月十五日貯藏分ヨリモ少量
 ノ分配ヲ受領セリ)ニ付テハ日本モ分配ニ與ルコトナレリ一九
 二〇年六月十五日賠償委員會染料分科會ノ定メタル日本ノ受クヘ
 キ分配率左ノ如シ

人造一割インダンスレン膏五分直接（原料染料ヲ含マス）一割酸
 性（媒染ヲ含マス）三分藍基性五分酸化一割中濁物五分

本館蔵書目録
 一、本館蔵書目録
 二、本館蔵書目録
 三、本館蔵書目録
 四、本館蔵書目録
 五、本館蔵書目録
 六、本館蔵書目録
 七、本館蔵書目録
 八、本館蔵書目録
 九、本館蔵書目録
 十、本館蔵書目録
 十一、本館蔵書目録
 十二、本館蔵書目録
 十三、本館蔵書目録
 十四、本館蔵書目録
 十五、本館蔵書目録
 十六、本館蔵書目録
 十七、本館蔵書目録
 十八、本館蔵書目録
 十九、本館蔵書目録
 二十、本館蔵書目録
 二十一、本館蔵書目録
 二十二、本館蔵書目録
 二十三、本館蔵書目録
 二十四、本館蔵書目録
 二十五、本館蔵書目録
 二十六、本館蔵書目録
 二十七、本館蔵書目録
 二十八、本館蔵書目録
 二十九、本館蔵書目録
 三十、本館蔵書目録
 三十一、本館蔵書目録
 三十二、本館蔵書目録
 三十三、本館蔵書目録
 三十四、本館蔵書目録
 三十五、本館蔵書目録
 三十六、本館蔵書目録
 三十七、本館蔵書目録
 三十八、本館蔵書目録
 三十九、本館蔵書目録
 四十、本館蔵書目録
 四十一、本館蔵書目録
 四十二、本館蔵書目録
 四十三、本館蔵書目録
 四十四、本館蔵書目録
 四十五、本館蔵書目録
 四十六、本館蔵書目録
 四十七、本館蔵書目録
 四十八、本館蔵書目録
 四十九、本館蔵書目録
 五十、本館蔵書目録
 五十一、本館蔵書目録
 五十二、本館蔵書目録
 五十三、本館蔵書目録
 五十四、本館蔵書目録
 五十五、本館蔵書目録
 五十六、本館蔵書目録
 五十七、本館蔵書目録
 五十八、本館蔵書目録
 五十九、本館蔵書目録
 六十、本館蔵書目録
 六十一、本館蔵書目録
 六十二、本館蔵書目録
 六十三、本館蔵書目録
 六十四、本館蔵書目録
 六十五、本館蔵書目録
 六十六、本館蔵書目録
 六十七、本館蔵書目録
 六十八、本館蔵書目録
 六十九、本館蔵書目録
 七十、本館蔵書目録
 七十一、本館蔵書目録
 七十二、本館蔵書目録
 七十三、本館蔵書目録
 七十四、本館蔵書目録
 七十五、本館蔵書目録
 七十六、本館蔵書目録
 七十七、本館蔵書目録
 七十八、本館蔵書目録
 七十九、本館蔵書目録
 八十、本館蔵書目録
 八十一、本館蔵書目録
 八十二、本館蔵書目録
 八十三、本館蔵書目録
 八十四、本館蔵書目録
 八十五、本館蔵書目録
 八十六、本館蔵書目録
 八十七、本館蔵書目録
 八十八、本館蔵書目録
 八十九、本館蔵書目録
 九十、本館蔵書目録
 九十一、本館蔵書目録
 九十二、本館蔵書目録
 九十三、本館蔵書目録
 九十四、本館蔵書目録
 九十五、本館蔵書目録
 九十六、本館蔵書目録
 九十七、本館蔵書目録
 九十八、本館蔵書目録
 九十九、本館蔵書目録
 一百、本館蔵書目録

第三 賠償染料取得打切ノ事情

千九百二十年七月十六日「スバル」協定成立シ其ノ結果獨逸國ヨリ實物ヲ賠償トシテ取得スルトキハ將來之ニ對シ現金ノ支拂ヲ要スルヤノ懸念ヲ生スルニ至リタルヲ以テ帝國ノ實物ニ對スル注文ハ成ル可ク之ヲ早く取得シテ打切ルコト寧ロ利益ニ非スヤト思考セラルル事情ヲ生シタル一方輸入染料ノ處分ニ關シテモ内地染料産業保護ノ關係上其ノ處分ヲ困難トスルモノアリタルヲ以テ旁々大正十年四月迄ノ注文ヲ以テ賠償染料取得ヲ打切リタリ

二、賠償染料取得再開ニ關スル経過

第三、賠償染料取得再開ノ経過
 本大目三十分計三十分は下大目三十分と區別被服
 中の染料は三十分の染料は下大目三十分の染料は
 中の染料は三十分の染料は下大目三十分の染料は
 中の染料は三十分の染料は下大目三十分の染料は
 中の染料は三十分の染料は下大目三十分の染料は
 中の染料は三十分の染料は下大目三十分の染料は
 中の染料は三十分の染料は下大目三十分の染料は
 中の染料は三十分の染料は下大目三十分の染料は
 中の染料は三十分の染料は下大目三十分の染料は
 中の染料は三十分の染料は下大目三十分の染料は
 中の染料は三十分の染料は下大目三十分の染料は
 中の染料は三十分の染料は下大目三十分の染料は
 中の染料は三十分の染料は下大目三十分の染料は
 中の染料は三十分の染料は下大目三十分の染料は
 中の染料は三十分の染料は下大目三十分の染料は

第一 賠償染料取得再開ニ關スル松島代理大使ノ請訓

第二 石井大使ノ請訓

註、千九百十八年十一月十一日以降千九百二十四年十一月三十日ニ至ル本邦ノ賠償勸定

第三 賠償染料取得再開交渉開始ニ關スル訓令

第四 本邦ノ分配參加希望ノ高級染料注文明細表ノ送付

第五 實物辨濟部ノ本邦ノ賠償染料分配參加要求ノ承認

第一 賠償染料取得再開ニ關スル経過松島代理大使ノ請訓
 本件ニ關シ大正十三年三月十三日在佛松島代理大使ヨリ左ノ通請訓
 シ來レリ

支拂擔保期間内ニ於ケル獲逸國ノ實物支拂繼續ノ件ニ關シ目下専門
 委員ノ手ニ於テ具體案件放中ナルカ實物ノ種類及總額決定ハ各國ノ
 利害關係錯雜シ容易ニ解決スルニ主ラス
 英國側ヨリ聞ク所ニ依レハ品目ヲ(一)石炭ト(二)染料ニ限リ

(4)總額約五億金貨麻(一)丙石炭四億五千、染料五千萬トス一トスル

奏ト

(四)石炭ノ價格騰貴ヲ理由トシ少クトモ總額ヲ六、七億金貨トス
 ル説トアリ未タ決定セサルカ如シ

而シテ染料ニ付テハ從來ノ引渡豫定額ヲ其ノ血縁額スル意請ナル趣
 ナルカ千九百二十年染料取得ヲ中絶セル本邦他ハ顧ミラレサルニ正
 ル處アリ
 然テハ我方ニテハ權利係全ノ偏非公式ニ注意ヲ喚起シツツアルカ本
 邦ニ需要多キーインデゴ一ニ對スル各國ノ需要額ハ僅少ニシテ獨逸
 國月産額五百噸中百噸ニ達キス（全産額年約七千萬金貨銀世シ一イ
 ンデゴ一ハ價格ノ高値甚シク假使ヲ待ルコト困難ナリ）且賠償委員
 會實物辨済部長ヲ初メ本邦ニ好意ヲ寄セ居ル向モ少ナカラサレハ若
 シ帝國ニ於テ染料ヲ受領スルノ意思アラハ此際正式ニ申入ヲ爲シ置
 クコト必要ナリ

（Faint, mostly illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text appears to be organized in vertical columns, typical of a memorandum or official report.)

第二 石井大使ノ請訓

次テ同月二十三日石井大使ヨリ直テ左記ノ通電報アリタリ

專問委員會ハ既ニ重要ナル部分ノ審議ヲ了シ三月末迄ニハ賠償委員會ニ報告書ヲ提出スル模様ナルカニケ年ノ支拂猶豫期間中ノ獨逸國ノ支拂額ハ最後ニ非サレハ確定セサルヘキカ目下ノ形勢ニテハ年約九億金貨銀内外ナル旨内閣セリ
若シ「スバル」率ニ依リ右獨逸國ノ賠償支拂年額ヲ分配スルトキハ本邦ノ取令八年額六百六十萬金貨銀ニ過キサルモ本邦力千九百二十二年大蔵大臣協定ニ依リ同年度中受領シ得ヘカリシ千百萬金貨銀及千九百二十三年本邦取分約三百四十萬金貨銀（同年實物賠償總額約四億五千萬金貨銀）ヲ考慮スルトキハ年千萬乃至千五百萬

1. Indigo (as being absolutely powder) 1000 (千疋) 10000 (千金座)
 2. Yab dyes other than indanthrene blue 10 100
 G. C. D.
 3. Alizarine dyes other than red 10 100
 4. Direct cotton colors 110 1100
 5. Developed cotton colors 10 100
 6. Cold wood colors 10 100
 7. Chrome colors 110 1100
 8. Basic colors 110 1100
 總計 1100 11000

註

數量

見積金額

品目ノ振替及掲載以外ノ染料ヲ取得セサル様致度之カ爲取得
 総額ノ減少スルコトアルモ差支ナシ
 尙右ノ中「インデngo」ハ右ノ四種ニ之ヲ限り直ニ注文ヲ發
 スルコトト致度シ但シ年額總計八百噸以内（粉狀品トシテ）
 トシ其ノ割當ハ適宜定メラレ度シ

- Indigo pure D. L. S. F. Powder
- Indigo pure B. A. S. F. 20 % Paste
- Indigo M. K. S. Small grain.
- Indigo M. A. B. 20 % Paste.

金貨麻（註）ト算出スルコト敢テ不常ニアラサルヘシ右金額ハ割込
 ノ比較的容易ニシテ引渡ヲ受クルニ最モ簡單ナル染料ヲ以テスルコ
 ト上策ナリ

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is faint and difficult to read.

千九百二十一年五月一日以前
千九百二十一年五月一日以後
千九百二十一年五月一日以前ニ本邦ノ實物受領總額ハハ九八八六四
〇〇〇六金貨麻ナルカ右金額中ヨリ賠償勘定ニ屬セサル金額ニ六九
〇〇〇〇〇〇金貨麻ヲ控除シタル殘額ハ七一六六四〇〇六金貨麻
ヲ賠償勘定トセリ

註 千九百十八年十一月十一日以降千九百二十四年十一月三十一
日ニ至ル本邦ノ賠償勘定左ノ如シ

千九百二十一年 五月一日以前	千九百二十 一年以後	自千九百十八年 十一月十一日 至千九百二十四 年十一月三十日 總借記額	千九百二十四年 十一月三十一日 迄ニ分配セラレ タル總貸記額 (假計算)	差引額未済債權
八七一六四〇〇六	ナ	八七一六四〇〇六	一八八八八・六三	一三二七〇二七・五七
(實物受領額)	シ			

千九百二十一年五月一日以前ニ本邦ノ實物受領總額ハハ九八八六四
〇〇〇六金貨麻ナルカ右金額中ヨリ賠償勘定ニ屬セサル金額ニ六九
〇〇〇〇〇〇金貨麻ヲ控除シタル殘額ハ七一六六四〇〇六金貨麻
ヲ賠償勘定トセリ

第三 賠償染料取得再開交渉開始ニ關スル訓令

(一) 然ルニ一方農商務省ニテハ近々染料ノ輸入許可ニ關スル指令ヲ公布シ染料ノ輸入制限ヲ實施スルコトニ決定シタルヲ以テ特設カ賠償染料ヲ受領スルコトヲ適當ト認メタルコト

(二) 同盟諸國ハ夫々賠償染料ノ註文ヲ爲シ居レルニ付（英國ノ賠償染料註文經過、在佛石弁大使來信大正十二年十二月七日附公第七四五號「ルール」工業家契約正文送付ノ件、大正十三年一月二十一日公第五一號獨逸賠償染料ニ關スル賠償委員會決議ノ件、大正十三年三月二十八日附公第二三三號英國賠償染料註文ノ件）

(三) 關係官廳ト協議ノ上「インデゴ」以外ノ染料註文明細表ハ賠償專門委員會ノ報告ニ關シ國際會議開催セラレ本邦ノ受領染料分証

第四 本邦ノ分配参加希望ノ高級染料註文明細表送付

其後六月七日農商務省令第八號染料ノ輸入許可ニ關スル件公布セラレ
 レ急染料ノ輸入制限實施セラルルコトナリタルニ付更ニ前項ニテ
 電報シ置タリ

- (イ) 註文明細表數量ハ帝國ニ於テ處理ニ困難ヲ感セサル最高限度
 ナルヲ以テ掲載品目以外ノ染料ヲ取得セサルハ勿論各掲載
 料ニ付テモ記載數量ヲ超過スルコトナカラシムルコト
 之カ爲ニ賠償染料取得總額カ減少スルコトアルモ差支ナキコ
 ト
- (ロ) 成ル可ク別表ノ範圍内ニ於テ多量ノ賠償染料ヲ取得スル様態
 ノラレ度キハ勿論ナルモ獨逸ノ生産額各國ノ注文總額ノ支

拂フヘキ賠償年金額帝國ノ賠償取分率等ニ鑑ミ別表數量
 カ過大ニ失スル場合ニハ公正ナル程度ニ之ヲ減少スルハ差支
 ナキコト

イ 別表ノ品目及數量ノ全部ヲ取得シ難キ場合ニハ獲逸ノ生産額各
 國ノ注文額等ヲ考量シ最モ帝國ノ取得シ易キ品目ヲ選ル成ル
 可ク多ク帝國ノ希望ヲ達成スル様努ムルコト

ロ 近ク賠償専門委員會報ニ關シ國際會議開催セラレ賠償金品
 分配問題ニ付テモ何等カノ決定ニ達スルモノト思考セラルル
 ニ付テハ右決定ニ至ル迄注文ヲ差控ヘ置クコト適當ナリト思
 惟セラルル場合ニハ之ヲ差控ヘ置クコトトシ差支ナキモ帝國
 ニ於テモ染料輸入許可ニ關スル件ヲ公布シテ染料ノ輸入制限

[Faint, mostly illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

ヲ實施スルコトトナリタルニ付此際賠償染料ヲ受領スルハ適
 當ト認メラルルヲ以テ成ル可ク速ニ其ノ運ニ至ラシメ度キ希
 望ナル處聯合諸國ハ賠償染料ノ注文ヲ爲シ居ル種（第三項參
 照）ナルヲ以テ若シ差支ナキニ於テハ國際會議ノ決定ヲ依タ
 ス直ニ別表ニ備染料ノ全部又ハ一部ノ取得ニ付適宜手續アリ
 母キ旨申添ヘタル上

帝國ノ分配參加希望ノ高級染料ノ注文明細表（表略）ヲ六月二十六
 日附ヲ以テ在佛石井大使宛送付シタリ

[Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page]

第五 實物辨濟部ノ本邦ノ賠償染料分配參加要求ノ承認

在佛石井大使ハ前記ノ訓令ニ基キ倫敦會議終了後直ニ賠償委員會當局者ト談判ヲ遂ケ八月十九日附テ以テ實物辨濟部宛我方ノ要求書ヲ提出シ適キタルカ之ニ對シ同月二十五日同部ハ本邦ノ要求ヲ承認シ千九百二十年ニ於ケル本邦所要染料分産率ノ復活ヲ認メ千九百二十四年度ニ於テハ不取敢四百萬金貨麻ヲ送エサル範圍ニ於テ獨逸國ノ生産高八月分及七月分産額ニ對スル分ヨリ注文ヲ發スルコトニ同意セリ（註一）

右交渉ニ際シ本邦ノ要求額カ千三百萬金貨麻ニ上レルカ爲他日大藏大臣會議開催セラレ其ノ結果決定セラルヘキ本邦賠償分産額カ果シテ我方ノ要求額ヲ一カバーレシ得ヘキヤ否ヤ等ノ懸念モアリ

且染料部ニ於テハ専門委員會ノ報告實施セラレ本邦ノ賠償分應受
 額額カ決定セラルル迄ハ注文ヲ發スルコト困難ナリトノ意見ナリ
 シカ右ニ對シテハ實物辨濟部會議ニ於イテ我方ノ立場ヲ證明シ
 直ニ注文ヲ發スルトスルモ本年度内（千九百二十四年）ニ取得シ
 得ヘキ額ハ四百萬金貨ニ過キサルヘク結局我方ノ取得シ得ヘキ
 分配率ヲ超過スルコトナカルヘシト主張シタル結果染料部ニ於テ
 ハ遂ニ本邦要求額ノ三分ノ一即チ四百萬金貨ヲ越エサル範圍
 ニ於テ直ニ注文ヲ發スルコトニ同意シ同部ハ九月二十三日獨逸染
 料中央會ニ對シ

「ヴェルサイユ」條約第八編第六附屬書規定ニ依リ獨逸國カ賠償
 委員會ニ對シ引渡ノ義務ヲ負ヘル染料ニ付日本ハ千九百二十年三

月十五日ノ賠償委員會ノ決議ニ依リテ認めラレタル分配参加ノ權利ノ行使ヲ要求シ來リ賠償委員會ハ之ヲ承認シテ日本ニ參シ從來ト同一ノ率ヲ以テ分配ニ參與セシムルコトヲ決定セルコト並日本ノ第一回註文トシテ七月分殘額ニ對スルモノ「インデゴ」泥狀品二百噸荷受人ハ神戸税關長連送代理人ハ日本郵船會社倫敦支店漢堡出張所ナル旨」

通知シタルカ十月二十五日漢堡出帆「ダカ」丸ニ全額積出ヲ最初トシ我万ノ賠償染料取得再回セララルコトトナレリ（註）

註、石井大使ヨリ染料部ハ七月分殘額ノ判明スル九月十八日及八月分生産高ノ判明スル九月二十五日頃夫々染料中
 央部ニ注文ヲ發スル手筈トナリ居リ右注文後一ヶ月内ニ

ハ引渡ヲ受クル見込ナルヲ以テ引渡港税込船料等受領ニ
 關スル諸般ノ要件ヲ問合セ察リタルニ付關稅官廳ト協議
 ノ上右ハ總テ従前ト同一トスル旨同電シ置キタリ
 而シテ右四百萬金貨麻ハ

(4) 條約其ノ他染料ニ關スル從來ノ協定ニ基ク特別ノ價格（輸出最
 低價格）ニ據ルモノトス

(5) 從テ本邦製糸強織ニシテ千九百二十五年ニ繰越シ注文マラル
 ル分（染料ハ平和條約ニ依レハ千九百二十四年度ヲ以テ打替ル
 コトトナリ居レリ）ハ倫敦協定ニ依リ *Quasi-Export Commercial*

Condition ニ基ク價格トナルヘシ

註一 八月十九日附本邦染料分配再開要求書面（染料注文表添付）

[Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page]

Commission des Reparation.

to the Chairman of the S. R. R. K.

The Reparation Commission, by its decision No. 191 taken at its 25 meeting on March 15th 1920, granted to the Japan Government the right to participate in the deliveries of dyestuffs made to the Commission by virtue of Annex VI of the Treaty of Versailles.

The Japanese Government availed itself of this privilege until August 1920.

Subsequently, the Bureau for Dyestuffs of the Reparation Commission, in view of the fact that the Japanese Government was no longer placing order, requested that it be authorized to apportion the quantities allotted to Japan amongst the other powers receiving dyestuffs.

In complying with this request, the Japanese Delegation expressly reserved the right to the claim the same percentage of the 25 % of the monthly German production if it should ever decide to again exercise the right granted to it by the Reparation Commission in the decision referred to above.

The Japanese Delegation is now desirous of exercising this right
 and requests that arrangements be made for renewing her participation
 in the deliveries of dyestuffs supplied by Germany as Reparation in
 accordance with the former percentages allotted to the Japanese Govern-
 ment. The Delegation encloses herewith a list of the requirements of
 Japan for the period of one year and requests that those requirements
 be filled as far as possible out of the production of the German
 factories during the year 1924 in accordance with the terms of Annex
 VI, Part VIII of the Treaty.

For the Assistant Japanese Delegate,

(Signed) T. Takouchi,

The General Secretary.

The General Secretary
Colonel J. G. Bennett

For the Japanese Delegation

At the close of the meeting
concluded under the 1921 in accordance with the terms of which
be killed in 1921 in the hope of the resolution of the German
taken for the better of the West and reduced that these requirements
more. The Delegation enjoyed however a list of the resolutions of
accordance with the former resolutions offered to the Japanese Govern-
in the deliveries of chemicals supplied in Germany as represented in
and judgment that arrangements be made for removing the Delegation
The Japanese Delegation is now preparing to exercise their right

註二、八月二十三日附ノ踏査委員會實務部藥料部意見書

Note

pour le conseil de service des R. R. N.

Le Bureau des Matières Colorantes et Produits Pharmaceutiques a l'honneur de soumettre au Conseil la lettre ci-jointe de la Délégation Japonaise.

Il semblerait au Bureau qu'en principe le droit du Japon de participer aux livraisons des matières colorantes existe toujours et qu'il n'y a pas lieu de demander à la C. R. une nouvelle décision à ce sujet.

La question importante est de savoir quand il sera possible de commencer à transmettre les commandes du Japon à la Centrale des Usines de Matières Colorantes. En effet, les

livraisons faites en ce moment se font en vertu de l'accord de Paris du 14 Décembre 1923 et ne sont pas remboursées aux usines par le Gouvernement allemand. Il serait donc fort douteux que les Usines consentent à livrer des colorants au Japon tant que cette situation subsistera.

Les conventions ne pourront être transmises que lorsque l'Agent des Paiements des Réparations entrera en fonctions et aura les fonds nécessaires à disposition. Le Bureau désireait avoir

←

Les livraisons effectuées en vertu de l'accord de Paris du 14 Décembre 1923 ne sont pas remboursées aux usines par le Gouvernement allemand. Il serait donc fort douteux que les usines consentent à livrer des colorants au Japon tant que cette situation subsistera.

Les conventions ne pourront être transmises que lorsque l'Agent des Paiements des Réparations entrera en fonctions et aura les fonds nécessaires à disposition. Le Bureau désireait avoir

English translation of the Japanese text on the reverse side of the page. The text is extremely faint and largely illegible due to fading and bleed-through from the reverse side. It appears to be a formal document or report.

avoir l'avis du Conseil quant à cette date.

La valeur approximative des colorants demandés par le Japon pour la période d'un an est de 12 millions de marks or et le Bureau désirerait également savoir si le pourcentage qui sera alloué au Japon suffira à couvrir cette somme.

Le Chef de Bureau:
(Signé) R. Norris.

註三、實物辨濟部決議

Extrait des décisions

prises par le Conseil de Service des R. S. N. dans sa 524^{ème}

Séance du Jeudi 25 Août 1924.

(S/LC/1-12772) Le Conseil prend connaissance d'une lettre de la

Délégation Japonaise par la quelle celle-ci evise la C. R. de son

entendu que celles-ci n'excéderont pas sur la production de l'-

année 1924 une valeur supérieure à 4 millions de mark or.

Les commandes Japonaise ne seront transmises que lorsque les

autres Puissances intéressées auront reçu la notification

[Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

Matières Colorantes et produits Pharmaceutiques est autorisé:

- 1°) à attribuer au Japon son ancien pourcentage de participation aux 25 % de la production journalière allemande.
- 2°) à transmettre à la Centrale de Francfort les commandes japonaises, étant droit de participation aux livraisons de matières colorantes.

Le Conseil se déclare d'accord sur la reprise des livraisons de matières colorantes au Japon, en vertu de la décision originale de la C. R. 191 en date du 15 Mars 1920.

En conséquence, le Bureau des

「トーズ」年次金第一年度分中ノ本邦賠償取分
額取得ノ経過

- 第一 千九百二十四年度生産染料取得計畫
- 第二 注文額及残存權利額

[Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page]

「ドーズ」年次金第一年度分中ノ本邦賠償
取分額取得ノ經過

第一 千九百二十四年度生産染料取得計畫

本年一月十四日調印セラレタル「ドーズ」年次金分配ニ關スル協
定ニ依リ「ドーズ」案實施第一年度（一九二四年九月一日—一九
二五年八月三十一日）ニ於ケル年次金中本邦ノ取分額ハ四百九十
四萬四千八百金貨麻トナリタルカ右賠償分宛テハ之ヲ全部染料及
中間物ニテ受信スルコトトセリ
而シテ染料及中間物ノ取得ニ付テハ千九百二十四年度中ノ生産ノ
モノハ「ヴェルサイユ」條約第八條第六附屬條ノ適用ニ依リ輸出
最低價格ト定メラレ居ルモノ千九百二十五年度生産ノモノハ倫敦條

定第二附屬書ニ所謂商取引ノ基礎ニ依ル協定價格トナルヲ以テ自
 然前者ヨリモ高價トナルコトヲ免レサルノミナラス右ニ關シテハ
 新ニ獨逸側ト協定ヲ遂クル必要アリ旁々第一年度ニ於テハ其ノ全
 額ヲ千九百二十四年度ノ生産染料ヨリ取得スルヲ有利ナリト認メ
 タルヲ以テ客年八月賠償委員會實物辨濟部ヨリ本邦染料取得再開
 承認ノ際千九百二十四年度ノ生産染料ニ對シテハ四百萬金貨麻以
 内ノ注文ヲ發スルコトヲ得ル旨通告シ來リタルニ依リ之ヲ授用シ
 四百萬金貨麻迄ヲ千九百二十四年度ノ生産染料ヲ以テ取得スヘキ
 計劃ヲ立テタリ

然ルニ千九百二十四年度ノ生産染料ノ引渡ハ千九百二十五年三月
 ヲ以テ打切リトナルニ拘ラス昨年九月以降本年一月末迄ニ既ニ注

文濟ノモノ約二百三萬餘ナル慶同期日迄ニ引渡ヲ終了スル見込ノモノ約百八十四萬金貨應ニ需キサルニ付殘額二百萬餘ハ之ヲ二三ノ兩月中ニ取得スルノ必要アリ

而シテ賠償支拂取扱人ノ毎月ノ支拂豫算ハ佛、白、英、伊ノ四國副委員及賠償支拂取扱人代表者「フレージャー」氏ヲ以テ組織セラ

ルル常設庶務委員會ノ決スル所ナルヲ以テ右委員會ニ對シ二三兩月中本邦ニ各百萬金貨應ノ「クレデット」ヲ認メラレ度キ旨要求スルト共ニ染料部ヨリモ右ノ額ヲ常設庶務委員會ニ申出ツル權取

計置タリ

賠償支拂取扱人ノ豫算ハ毎月不足ヲ生スル状態ニテ本邦ノ取手スヘキ「ドーズ」年次金中ノ第一年度ノ分配額ノ約半額ヲ二三ノ兩

（Faint, mostly illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page. Some characters are difficult to discern but appear to be Japanese text.)

月中ニ支出スルコトニ付テ異議アリシカ當設庶務委員會ハ一月二十七日二月中ノ實物引渡豫定額審議ニ際シ結局我方ノ要求ヲ承認シ二月中百萬金貨麻ヲ本邦染料ニ對スル支拂ニ充ツル件ヲ決議シタルカ三月二日三月中ニ對シテモ前月同様百萬金貨麻ノ染料取得ヲ承認セラレタルヲ以テ茲ニ第一年度ノ「ドーズ」年次金中我方ノ分配額四百九十四萬餘金貨麻中四百萬金貨麻ハ之ヲ千九百二十四年度ノ生産染料ヲ以テ取得スルコトニ確定ヲ見タリ而シテ其ノ殘額九十三萬餘金貨麻ニ付テモ之ヲ四五月中ニ取得スルコトヲ得ル種賠償委員會ノ内諾ヲ取付ケ置タリ

（Faint, mostly illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page. Some characters are difficult to discern but appear to be vertical columns of Japanese text.)

第三注文額及残額

三月十四日迄ニ約三百七十万金貨廠ヲ注文セシカ千九百二十四年度生産染料残額中本邦注文表（帝國ニ於テ處理ニ困難ヲ感セサル最高限度ノ數量）ニアルモノ最早納キタルヲ以テ今後ハ注文表以外ノ生産品ヲ注文スルノ要アル外客年度生産ノ分ニ對スル注文ハ三月二十一日限打切トナル趣ヲ以テ在佛石井大使ヨリ十二月分生産品目中主ナル残品ヲ通報シ來リ右ノ内入用品アラハ品目數量ヲ回電アリ度キ旨申越シタルカ當時未タ十二月分生産自給到着シ居ラサリシニ付残品ノ内容不明ナリシカ宛モ角モ客年送付シ置キタル千九百二十五年度ノ染料注文表ニ該當スルモノアラハ之ヲ以テ帝國ノ權利殘額タケ注文スル權取計方並賠償勘定ヲ利用シテ無線

電信機ヲ取得スル件ニ付テハ研究中ナルモ第一年度ヨリ注文ノ一部ト爲ス運ニ至ルコト困難ナル旨回電シ置キタルカ結局約百二十万金貸麻ハ注文未了(註)トナリタルカ右本邦権利殘額ハ入用ノ際何時ニテモ繰越シ使用シ得ル様賠償委員働ノ諒解ヲ取附ケ置キタリ(註三)

（註）電信機取得ノ事ハ第一年度ヨリ研究中ナルモ第一年度ヨリ注文ノ一部ト爲ス運ニ至ルコト困難ナル旨回電シ置キタルカ結局約百二十万金貸麻ハ注文未了トナリタルカ右本邦権利殘額ハ入用ノ際何時ニテモ繰越シ使用シ得ル様賠償委員働ノ諒解ヲ取附ケ置キタリ

（註三）

千九百二十四年度染料注文額

三九百二十四年度染料注文額

注文引渡未済額

三九百二十四年度染料注文額

三九百二十四年度染料注文額

月	支拂額	未決済額	純受領額
十月	三九五四七四七五		三九五四七四七五
十一月	五〇三九三三七五		五〇三九三三七五
十二月	三三三六四八一五		三三三六四八一五
一月	四八九二五二六五	九七一八八〇	四七九五三三八五
二月	八二九〇〇〇〇	二五五五四四〇	八〇三四四六〇
三月	七二九〇〇〇〇		七二九〇〇〇〇

註一

（Faint vertical text, likely bleed-through from the reverse side of the page, containing financial or administrative details.)

「ドーズ」年次金第一年度本邦取分残存權
利額

¥110700500

「ドーズ」年次金第一年度分本邦取分額 四九四四〇〇九二〇X

(Xハ見積額)

註二 賠償勅定ヲ利用シテ無線電信機取得ノ件ハ別ニ述フヘ
シ

註三 其後十二月分生産目錄ヲ接到シタルニ依リ右ニ付キ約
六十萬金賞金取得方在佛大使ニ電報シタレトモ注文打切
後ナリシカ爲遂ニ取得スルコト能ハサリヤ

註四 在佛大使來電第一三六號參照

四、千九百二十五年度以降ノ生産染料
取得ニ關スル交渉經過

第一、先般大英染料社ニ三六號通牒
 第二、大英染料社ニ三六號通牒
 第三、大英染料社ニ三六號通牒
 第四、大英染料社ニ三六號通牒
 第五、大英染料社ニ三六號通牒
 第六、大英染料社ニ三六號通牒
 第七、大英染料社ニ三六號通牒
 第八、大英染料社ニ三六號通牒
 第九、大英染料社ニ三六號通牒
 第十、大英染料社ニ三六號通牒
 第十一、大英染料社ニ三六號通牒
 第十二、大英染料社ニ三六號通牒
 第十三、大英染料社ニ三六號通牒
 第十四、大英染料社ニ三六號通牒
 第十五、大英染料社ニ三六號通牒
 第十六、大英染料社ニ三六號通牒
 第十七、大英染料社ニ三六號通牒
 第十八、大英染料社ニ三六號通牒
 第十九、大英染料社ニ三六號通牒
 第二十、大英染料社ニ三六號通牒
 第二十一、大英染料社ニ三六號通牒
 第二十二、大英染料社ニ三六號通牒
 第二十三、大英染料社ニ三六號通牒
 第二十四、大英染料社ニ三六號通牒
 第二十五、大英染料社ニ三六號通牒
 第二十六、大英染料社ニ三六號通牒
 第二十七、大英染料社ニ三六號通牒
 第二十八、大英染料社ニ三六號通牒
 第二十九、大英染料社ニ三六號通牒
 第三十、大英染料社ニ三六號通牒
 第三十一、大英染料社ニ三六號通牒
 第三十二、大英染料社ニ三六號通牒
 第三十三、大英染料社ニ三六號通牒
 第三十四、大英染料社ニ三六號通牒
 第三十五、大英染料社ニ三六號通牒
 第三十六、大英染料社ニ三六號通牒
 第三十七、大英染料社ニ三六號通牒
 第三十八、大英染料社ニ三六號通牒
 第三十九、大英染料社ニ三六號通牒
 第四十、大英染料社ニ三六號通牒
 第四十一、大英染料社ニ三六號通牒
 第四十二、大英染料社ニ三六號通牒
 第四十三、大英染料社ニ三六號通牒
 第四十四、大英染料社ニ三六號通牒
 第四十五、大英染料社ニ三六號通牒
 第四十六、大英染料社ニ三六號通牒
 第四十七、大英染料社ニ三六號通牒
 第四十八、大英染料社ニ三六號通牒
 第四十九、大英染料社ニ三六號通牒
 第五十、大英染料社ニ三六號通牒
 第五十一、大英染料社ニ三六號通牒
 第五十二、大英染料社ニ三六號通牒
 第五十三、大英染料社ニ三六號通牒
 第五十四、大英染料社ニ三六號通牒
 第五十五、大英染料社ニ三六號通牒
 第五十六、大英染料社ニ三六號通牒
 第五十七、大英染料社ニ三六號通牒
 第五十八、大英染料社ニ三六號通牒
 第五十九、大英染料社ニ三六號通牒
 第六十、大英染料社ニ三六號通牒
 第六十一、大英染料社ニ三六號通牒
 第六十二、大英染料社ニ三六號通牒
 第六十三、大英染料社ニ三六號通牒
 第六十四、大英染料社ニ三六號通牒
 第六十五、大英染料社ニ三六號通牒
 第六十六、大英染料社ニ三六號通牒
 第六十七、大英染料社ニ三六號通牒
 第六十八、大英染料社ニ三六號通牒
 第六十九、大英染料社ニ三六號通牒
 第七十、大英染料社ニ三六號通牒
 第七十一、大英染料社ニ三六號通牒
 第七十二、大英染料社ニ三六號通牒
 第七十三、大英染料社ニ三六號通牒
 第七十四、大英染料社ニ三六號通牒
 第七十五、大英染料社ニ三六號通牒
 第七十六、大英染料社ニ三六號通牒
 第七十七、大英染料社ニ三六號通牒
 第七十八、大英染料社ニ三六號通牒
 第七十九、大英染料社ニ三六號通牒
 第八十、大英染料社ニ三六號通牒
 第八十一、大英染料社ニ三六號通牒
 第八十二、大英染料社ニ三六號通牒
 第八十三、大英染料社ニ三六號通牒
 第八十四、大英染料社ニ三六號通牒
 第八十五、大英染料社ニ三六號通牒
 第八十六、大英染料社ニ三六號通牒
 第八十七、大英染料社ニ三六號通牒
 第八十八、大英染料社ニ三六號通牒
 第八十九、大英染料社ニ三六號通牒
 第九十、大英染料社ニ三六號通牒
 第九十一、大英染料社ニ三六號通牒
 第九十二、大英染料社ニ三六號通牒
 第九十三、大英染料社ニ三六號通牒
 第九十四、大英染料社ニ三六號通牒
 第九十五、大英染料社ニ三六號通牒
 第九十六、大英染料社ニ三六號通牒
 第九十七、大英染料社ニ三六號通牒
 第九十八、大英染料社ニ三六號通牒
 第九十九、大英染料社ニ三六號通牒
 第一百、大英染料社ニ三六號通牒

昭和十三年三月二十日
松島代理大使ニ對スル回訓
第一 松島代理大使ノ請訓
第二 各國染料専門家ノ非公式會合
第三 松島代理大使ニ對スル回訓
第四 染料引渡ニ關スル聯合國側ト獨逸側トノ交渉
第五 本邦ニ對スル獨逸側ノ協定案及其ノ要求スル保障
第六 實物辨濟部染料分科會ノ決議
第七 獨逸側染料組合代表者ヨリノ再度ノ申出
第八 石井大使ノ請訓
第九 本邦ノ賠償染料取得ニ關スル方針
（一）賠償物件處理委員會ノ審議
甲 大正十三年度分ノ染料ノ處分

- 第一 松島代理大使ノ請訓
- 第二 各國染料専門家ノ非公式會合
- 第三 松島代理大使ニ對スル回訓
- 第四 染料引渡ニ關スル聯合國側ト獨逸側トノ交渉
- 第五 本邦ニ對スル獨逸側ノ協定案及其ノ要求スル保障
- 第六 實物辨濟部染料分科會ノ決議
- 第七 獨逸側染料組合代表者ヨリノ再度ノ申出
- 第八 石井大使ノ請訓
- 第九 本邦ノ賠償染料取得ニ關スル方針

（一）賠償物件處理委員會ノ審議

甲 大正十三年度分ノ染料ノ處分

乙 大正十四年度以降ノ分

(一) 特任小委員會ノ審議

第十 石井大使ニ封スル訓令

第十一 獨逸國トノ交渉經過

第十二 染料取得ニ關スル各國ト獨逸國トノ協定

(一) 佛獨賠償染料引渡協定案

(二) 獨逸染料組合ト英吉利國政府トノ協定

(三) 獨逸染料組合ト伊太利國政府トノ協定

(四) 白耳義國政府ト獨逸染料組合トノ協定案

第十三 白耳義國政府染料交渉委員「フリツクル」氏ヨリ本邦ト獨逸染料

料組合トノ協定ノ基礎トシテ示シ來レル參考案

第十四「クンツエ」氏カ實物辨濟部特別委員會議ニテ爲セル聲明要

旨

第十五實物辨濟特別委員會

第十六實物辨濟特別委員會ノ各國染料協定可決

第十七實物辨濟手續規定

第十四「クンツエ」氏カ實物辨濟部特別委員會議ニテ爲セル聲明要旨
第十五實物辨濟特別委員會
第十六實物辨濟特別委員會ノ各國染料協定可決
第十七實物辨濟手續規定

千九百二十五年年度以降生産染料取得ニ關スル交渉
 第一 松島代理大使ノ謁訓
 客年九月四日在佛松島代理大使ヨリ次ノ通電報アリタリ
 倫敦協定ニ依ル特別委員會モ近々實現ノ進ニ至ルヘク本邦モ此際英
 國ニ倣ヒ(註)獨逸側ト相當接觸ヲ請シ置クノ要アリ尤モ本邦ハ「ラ
 イン」高級委員會ニ代表者ヲ有セス又同地方獨逸染料業者トハ從來
 公然ノ交渉ヲ有セサル現狀ナレハ米シテ英國側等ノ如ク容易ニ接觸
 ナ行ヒ得ルヤ否ヤハ疑問アリ已テ得サル場合ニ於テハ英國其他ノ關
 係國ト連絡ヲ保テ以テ何等カノ形ヲ以テ獨逸側ノ諒解ヲ取付ケ置ク
 程度ヲ以テ満足セサルヘカラサルヤモ知レス就テハ右ニ關シ心得迄
 ニ何分ノ裁斷也訓ヲ請フ

千九百二十五年年度以降生産染料取得ニ關スル交渉
 第一 松島代理大使ノ謁訓
 客年九月四日在佛松島代理大使ヨリ次ノ通電報アリタリ
 倫敦協定ニ依ル特別委員會モ近々實現ノ進ニ至ルヘク本邦モ此際英
 國ニ倣ヒ(註)獨逸側ト相當接觸ヲ請シ置クノ要アリ尤モ本邦ハ「ラ
 イン」高級委員會ニ代表者ヲ有セス又同地方獨逸染料業者トハ從來
 公然ノ交渉ヲ有セサル現狀ナレハ米シテ英國側等ノ如ク容易ニ接觸
 ナ行ヒ得ルヤ否ヤハ疑問アリ已テ得サル場合ニ於テハ英國其他ノ關
 係國ト連絡ヲ保テ以テ何等カノ形ヲ以テ獨逸側ノ諒解ヲ取付ケ置ク
 程度ヲ以テ満足セサルヘカラサルヤモ知レス就テハ右ニ關シ心得迄
 ニ何分ノ裁斷也訓ヲ請フ

註、英國ノ染料専門家「ヘイ」博士ハ同國ノ千九百二十五年生産染料取得ニ關シ關場事務官ニ左ノ通話レリ

(1) 英國ハ獨逸ヨリ取種染料ヲ輸入スル必要アリ付テハ自分ハ近々歸央ノ上官氏トモ打合テ了シ千九百二十五年度ノ所要額ヲ確定シ之ヲ豫メ獨逸ノ染料組合ニ内示シ將來ニ於ケル賠償染料引渡交渉ノ基礎ヲ造リ置タシ

(2) 一國ノ所安額ヲ豫メ定メタル上獨逸ノ染料組合ト其ノ引渡ヲ約束スルコトハ一國ノ工業ノ爲安全ナルノミナラス獨逸側ニ取リテモ繼續的註文ヲ得ルコトトナリ世界市場ヲ支持スルコトトテ有利ナルヘク此點ニ付テハ双方ノ間ニハ面倒ナカルヘ

シト思惟スレトモ價格ノ點ニ關シ再考ヲ欲スヘク難關ハ此點ニ存スヘシ來年以降ハ現制度ヨリ尚價トナルコトハ免レサルヘシト雖モ相當ノ價格ニテ折台フ確信アリ

イ實物引渡ニ關スル特別委員會ノ構成、其ノ開會時期等ニ付テハ倫敦協定中ニ於テ何等協定セサリシカ十月ノ大藏大臣會議頃ト見ルヘク附ノ件ハ夫レ以前ニ片付ケテ特別委員會ノ考慮ニ資セントス

ロ以上ノ染料要求ノ地位ニアル日本ニモ關係アリト思惟シタルカ故ニ御參考ニ供シタル次第ナリ尙製ニ師國ハ獨逸染料組合ト交渉スル處アリタルカ双方ノ要求ニ懸隔アリタルノミナラス獨逸會議前ナリシヲ以テ成功セサリシカ近キ將來ニ於テ交

再再開セラルヘシト認ハル

尙同時ニ松島代理天使ヨリ特別委員會ニ對シ証出又ハ説明ノ必要アル
ル經テ以テ左ノ事項問答アリタリ

- (一) 本年度以降一年分ノ本邦要求賠償染料明細表
- (二) 一ケ年間ニ於ケル本邦要求染料明細表(推定額ニテモ可)
- (三) 本邦要求染料ノ各品等級ニ付其ノ本邦市價(市價不明ナルモノハ推定價格)並產出量
- (四) 染料ニ對シ輸入許可ヲ付與スル場合ノ内規及取扱儀ノ現狀大要(若シ各製造業者別ニ特別ナル許可ノ標準額ノモノアラハ可成其レ等ノ額ヲ詳細ニ)

(五) 参考トナルヘキ其他ノ事項、特ニ彌越關ヲ満足セシメ得ヘキ

本邦染料市場ノ状況

内尚染料以外ノ貨物取得ニ付希望アラハ其ノ詳細

Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page, covering the right-hand page.

第二 各國染料専門家ノ非公式會合

其後十月ニ入り英國専門委員ハ特別委員會ノ開會ニ先立テ各國ノ意見ヲ交換スヘシト提議シタル結果各國ノ染料専門家ハ十月三四ノ兩日非公式ニ會合シ價格、再輸出禁止、目錄編製等ニ關シ討議シタレトモ何等具體的ノ決定ヲ見スシテ了リタリ然レトモ各該共同行動ノ機運ニ向ヘルコトハ我方ニ取り好都合ナリ

前記松島代理大使ニ對スル回訓
 前記松島代理大使ノ請訓ニ對シ千九百二十五年ニ於テ帝國ノ受領
 センコトヲ希望スル賠償染料、染料輸入許可ノ内規、染料以外ノ實
 物取得ノ希望等ニ關シ十月二十四日附ヲ以テ左記ノ通回電スル處ア
 リタリ

第三 松島代理大使ニ對スル回訓

前記松島代理大使ノ請訓ニ對シ千九百二十五年ニ於テ帝國ノ受領
 センコトヲ希望スル賠償染料、染料輸入許可ノ内規、染料以外ノ實
 物取得ノ希望等ニ關シ十月二十四日附ヲ以テ左記ノ通回電スル處ア
 リタリ

(1) 千九百二十五年所要求染料數量
 千九百二十五年一月乃至十二月ニ於ケル帝國ノ要求スル賠償染料表
 左ノ通

種目番號	數量(疋)
II	三〇五、〇〇〇
III	三〇、〇〇〇

中間物	六六、〇〇〇
VI	四九、〇〇〇
V	三〇、〇〇〇
IV	七〇、〇〇〇
III	一一、一〇〇
II	五五、八〇〇
I	三八、〇〇〇
中間物	四三、四〇〇
II	二一四、六〇〇
I	四〇、〇〇〇
中間物	六六、〇〇〇
VI	四九、〇〇〇

一、〇〇〇
 二、〇〇〇
 三、〇〇〇
 四、〇〇〇
 五、〇〇〇
 六、〇〇〇
 七、〇〇〇
 八、〇〇〇
 九、〇〇〇
 一〇、〇〇〇
 一一、〇〇〇
 一二、〇〇〇
 一三、〇〇〇
 一四、〇〇〇
 一五、〇〇〇
 一六、〇〇〇
 一七、〇〇〇
 一八、〇〇〇
 一九、〇〇〇
 二〇、〇〇〇
 二一、〇〇〇
 二二、〇〇〇
 二三、〇〇〇
 二四、〇〇〇
 二五、〇〇〇
 二六、〇〇〇
 二七、〇〇〇
 二八、〇〇〇
 二九、〇〇〇
 三〇、〇〇〇
 三一、〇〇〇
 三二、〇〇〇
 三三、〇〇〇
 三四、〇〇〇
 三五、〇〇〇
 三六、〇〇〇
 三七、〇〇〇
 三八、〇〇〇
 三九、〇〇〇
 四〇、〇〇〇
 四一、〇〇〇
 四二、〇〇〇
 四三、〇〇〇
 四四、〇〇〇
 四五、〇〇〇
 四六、〇〇〇
 四七、〇〇〇
 四八、〇〇〇
 四九、〇〇〇
 五〇、〇〇〇
 五一、〇〇〇
 五二、〇〇〇
 五三、〇〇〇
 五四、〇〇〇
 五五、〇〇〇
 五六、〇〇〇
 五七、〇〇〇
 五八、〇〇〇
 五九、〇〇〇
 六〇、〇〇〇
 六一、〇〇〇
 六二、〇〇〇
 六三、〇〇〇
 六四、〇〇〇
 六五、〇〇〇
 六六、〇〇〇
 六七、〇〇〇
 六八、〇〇〇
 六九、〇〇〇
 七〇、〇〇〇
 七一、〇〇〇
 七二、〇〇〇
 七三、〇〇〇
 七四、〇〇〇
 七五、〇〇〇
 七六、〇〇〇
 七七、〇〇〇
 七八、〇〇〇
 七九、〇〇〇
 八〇、〇〇〇
 八一、〇〇〇
 八二、〇〇〇
 八三、〇〇〇
 八四、〇〇〇
 八五、〇〇〇
 八六、〇〇〇
 八七、〇〇〇
 八八、〇〇〇
 八九、〇〇〇
 九〇、〇〇〇
 九一、〇〇〇
 九二、〇〇〇
 九三、〇〇〇
 九四、〇〇〇
 九五、〇〇〇
 九六、〇〇〇
 九七、〇〇〇
 九八、〇〇〇
 九九、〇〇〇
 一〇〇、〇〇〇

註一 種目番號ハ賠償委員會採用ノモノニ依ル、前記數字ハ各種目ノ小計ナリ

註二 右註文表ノ内譯市價本邦一ヶ年ノ染料生産高等ニ付テハ大正十三年十月二十七日附在佛石井大使宛和一機密
第二五號參照

但シ數量ハ粉狀品ニシテ最高濃度ノ低キモノヲ取得スル場合ニハ其ノ濃度ニ從ヒ増加スヘシ

尙本邦ニ對スル割當額ト要求總額トノ差額ハ人造藍ヲ以テ増減シ各個ノ染料ニ付テハ前掲ノ數量ハ最高ノ注文額ナルヲ以テ割當額力相當減少スルトモ差支ナシ

四 染料輸入許可ノ内規

四六	〇〇〇〇
四七	〇〇〇〇
四八	〇〇〇〇
四九	〇〇〇〇
五〇	〇〇〇〇
五一	〇〇〇〇
五二	〇〇〇〇
五三	〇〇〇〇
五四	〇〇〇〇
五五	〇〇〇〇
五六	〇〇〇〇
五七	〇〇〇〇
五八	〇〇〇〇
五九	〇〇〇〇
六〇	〇〇〇〇

本邦ニ於テ生産セラルルモノ竝其ノ代用品ハ原則トシテ輸入ヲ許可
 セス其ノ他ハ拘束ナク許可ヲ與フル方針ニテ實行シ居レリ但シ生産
 不足ノ結果價格暴騰スルカ知キ場合（未タ斯ノ知キコトナシ）ニ於
 テハ許可ヲ與フヘシ

㊦ 獨逸染料輸入ニ對スル制限

獨逸ニ對シテモ本邦ニ於テ現在生産セラルルモノ又ハ近キ將來ニテ
 生産ノ見込アルモノ竝其ノ代用品ニ限り輸入制限ヲ行ヒ其ノ他ノモ
 ノハ自由輸入ニ任セリ從テ㊦ノ注文染料モ現在又ハ近キ將來ニテ本
 邦ニ於テ生産シ得ル見込アルモノ竝其ノ代用品ニ限レリ右ノ點ハ幾
 分獨逸側ヲ満足セシメ得ヘシ

㊧ 染料以外ノ貨物取得

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including phrases like "本邦ニ於テ生産セラルルモノ" and "獨逸ニ對シテモ本邦ニ於テ現在生産セラルルモノ".)

尙染料以外ノ實物取得ニ付テハ大正十二年本邦ニ輸入セラレタル「
硫酸アンモニア」ノ總額ハ二四、九五〇、六〇九圓（内剩逸ヨリ韓
入セラレタルモノ二四八、四五二圓）ナルヲ以テ若シ有利ナル條件
ノ下ニ取得スルコトヲ得ハ受領致度ニ付價格其ノ他ノ條件豫想等御
回報アリ度シ尤モ本品ヲ注文スルハ染料又ハ現金受領額カ我方ノ
賠償割當額ニ違スル見込ナキ場合ニ限ル

第四 染料引渡ニ關スル聯合國側ト獨逸側トノ交渉

倫敦協定ニ基ク千九百二十五年以降ノ賠償染料引渡ニ關シテハ獨逸側ト特別委員會側トノ間ニ於テ協議中ナルカ從來通聯合國側ノ共同註文ニ對シ獨逸側ハ同協定中ノ商業取引ノ基礎トアルヲ極ニ取り強硬ニ反對シ議未タ瀕ラス一方聯合國側モ内實夫々事情ヲ異ニスルヲ以テ歩調一致セス白耳義ヲ始メトシ獨逸側ト各自内談ヲ進メ居レル次第ナルカ白耳義ハ需要染料ノ全部ヲ輸入ニ仰キ居レル關係上面倒最モ少ク交渉著シク進捗シ居レルカ(註)佛國等ハ自國ノ産業保護ノ見地ヨリ染料業者及消費者團體ヲシテ輸入ニ必要ナル品目數量ヲ決定セシメ其ノ以外ノ輸入ハ之ヲ抑壓セントスル方針ナルカ右ハ獨逸側ニ於テ極力反對スル處ナリ

Handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is mostly illegible due to fading and the angle of the page.

就テハ我方ニテモ右ノ情勢ニ鑑ミ具体案考究ノ必要アルニ付何分ノ
後電報アリ度キ旨在佛石井大使ヨリ請訓アリタリ

註 白耳義ノ交渉ニ付テハ後述スヘシ尙獨逸側ヨリ關場事務官
ニ對シ白耳義案ノ趣旨ニ依リ交渉センコトヲ希望シ來レリ

第五 本邦ニ對スル獨逸側ノ協定案及其ノ要求スル保障

(1) 獨逸側ノ本邦ニ對スル協定案

一月十四日ニ獨逸側ノ染料組合ノ代表者

等一行ノ來巴ヲ

機トシ關務事務官ハ右代表者ト會談ヲ遂ケタル後

ヨリ非

公式ニ送付シ來リタル獨逸側ノ提案セントスル協定案ノ要領左ノ通

一、獨逸ノ染料組合ハ賠償年次金受領總額ニ達スル迄日本國政府

ニ對シ染料及中間物ノ引渡ヲ承認スヘシ

二、日本國政府ハ一定ノ期日內ニ於テ其ノ要求スル染料ノ品目及

數量ヲ組合ニ通報スヘク之ニ對シ組合ハ引渡ノ能不能ヲ回答

スヘシ

三、賣買ノ契約ハ一ハンブルグ甲板波ノ値段ヲ以テ締結シ組合

ハ積出後賠償支拂取扱入ヨリ支拂ヲ受クヘシ

四、保険料及運賃ハ日本國政府之ヲ負擔スヘシ

五、日本國政府ハ該染料ノ到着後之カ販賣ヲ組合ニ一任シ組合ハ自己ノ手ニ在ル他ノ非賠償染料ト共ニ之ヲ隨時賣却スヘシ

六、組合ハ右賣却代金中ヨリ幾ニ賠償支拂取扱入ヨリ支拂ハレタル額ニ保険料及運賃ヲ加算シタル金額ヲ日本國政府ニ納入スヘシ右納入期限ハ賠償染料ノ到着後一ヶ月以内トスルモノトス

七、本協定實施ノ當然ノ前提トシテ組合カ日本ニ於ケル在荷ヲ補充スル爲輸入スル染料ハ他ノ諸國ヨリノ輸入ト全然同一ナル條件ヲ以テ輸入ヲ許可セラルヘシ

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

(四) 獨逸産ノ要求スル保障

尙獨逸産染料組合ノ代表者ハ右協定案ニ添付セル書函(一月十五日
 前蘭場事務官宛)ニテ日本國政府力賠償染料ヲ入札ニ依リテ抑下ク
 ルコトハ協定協定ニ所謂商業取引ノ趣旨ニ反スルニ付獨逸ノ染料方
 純然タル商業上ノ純益ニ依リテ消費者ノ手ニ入ルコトノ保障ヲ得ス
 ンハ務獨逸ニ於テハ染料ノ引渡ヲ承諾スルコトヲ得スト附言スル處
 アリタリ

第六 實物辨濟部染料分科會ノ決議

染料分科會ハ一月十六日ノ會議（註）ニ於テ賠償染料ノ取得ニ關シテハ約一ヶ月ノ期間内ニ於テ各國カ個別ニ獨逸側ト交渉ヲ行フヘキコトヲ決議シタリ

註 染料分科會一月十二日並同十六日會議報告書參照

而シテ各國トモ二月中旬頃迄ニハ協定ニ達スル見込ナルヲ以テ本邦ニ於テモ前記ノ獨逸側ノ提案ニ對シ速ニ對案ヲ提出スル必要アルニ付右獨逸側ノ協定案ニ對スル我方ノ意嚮承知シ度キ旨在佛石井大使ヨリ來電アリタリ

第七 獨逸個染料組合代表者ヨリノ再度ノ申出

二月初旬倫敦ニ赴キタル獨逸染料組合ノ代表者ハ其ノ途次關場事務官ヲ來訪シ再ヒ左ノ如キ申出ヲ爲シタリ

- 一 獨逸個ハ輸入制限撤廢ヲ以テ依然協定ノ前提トスルコト
 - 二 染料引渡ニ付テハ獨逸側カ賠償支拂取扱人ヨリ支拂テ受クルトキハ直ニ之ヲ日本國政府ニ支拂ヒ同時ニ染料ハ再ヒ獨逸商人ノ所有トスルコト
 - 三 價格ハ賣却地ノ賣却價格ヨリ運賃掛掛保險料税金及手数料等ヲ控除シタルモノヲ標準トスルコト
- 但シ右獨逸側ノ提案ノ第二ハ事實上現金引渡ニ等シキヲ以テ賠償支拂取扱人側ヨリモ故障アルヘシト思ハル

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the word "第七" and other illegible characters.)

第八 石井大使請訓

聯合各國ト獨逸側トノ交渉ハ多ク進捗シ白耳義及佛蘭西ト獨逸側ト
 ハ既ニ交渉成立シ伊太利及英吉利モ亦二月十五日頃成立ノ見込ナル
 ニ付テハ十二日前後ニ於テ巴里ニ開催ノ染料専門家會議ニテ全部商
 議結了シタキニ付至急本邦側ノ對案ヲ承知シ度キ旨切望セル趣ヲ以
 テ至急何分ノ訓令アリ度キ旨在佛石井大使ヨリ二月八日重テ請訓シ
 來レリ

石井大使ヨリ本邦ニ對シテ
 一 染料専門家會議ニ於テ
 二 伊太利及英吉利ノ交渉
 三 佛蘭西ト獨逸側トノ交渉
 四 白耳義ト獨逸側トノ交渉
 五 以上ノ交渉ノ進捗ニ對シテ
 六 本邦側ノ對案ヲ承知シ度キ旨切望セル趣ヲ以テ至急何分ノ訓令アリ度キ旨在佛石井大使ヨリ二月八日重テ請訓シ來レリ

本邦ノ賠償染料取得ニ關スル方針
 賠償物件處理委員會ノ審議
 大正十四年一月三十一日大藏省ニテ賠償物件處理委員會第八回會議
 附錄、其ノ概要左ノ通
 甲 大正十三年度分染料ノ處分
 「シンジケート」案ハ具體化スルニ至ラサル關係上今回
 ノ會議ニテ左ノ通決定ス
 (イ) 農商務省ノ染料製造工業保護ノ新政策ノ確定
 ナ候チ決定スルコト
 (ロ) 但シ右決定前ニ於テハ人造靱（賠償染料全量ノ九割六分ヲ占
 ヲ長本邦ニ於テ未タ工業的ニ生産セラルルニ至ラス）ノミノ

第九 本邦ノ賠償染料取得ニ關スル方針

(一) 賠償物件處理委員會ノ審議

大正十四年一月三十一日大藏省ニテ賠償物件處理委員會第八回會議
 附錄、其ノ概要左ノ通

甲 大正十三年度分染料ノ處分

「シンジケート」案ハ具體化スルニ至ラサル關係上今回
 ノ會議ニテ左ノ通決定ス

(イ) 農商務省ノ染料製造工業保護ノ新政策ノ確定

ナ候チ決定スルコト

(ロ) 但シ右決定前ニ於テハ人造靱（賠償染料全量ノ九割六分ヲ占
 ヲ長本邦ニ於テ未タ工業的ニ生産セラルルニ至ラス）ノミノ

大正十四年度以降ノ分
大蔵省作成第一案

拂下ハ從來採用シ來レル方法ニテ實行スルコト

乙 大正十四年度以降ノ分

(1) 大蔵省作成第一案

該ニ平邦ヨリ註文セル品種數量ニ關シ管通商業取引價格ヲ本邦賠償
委員ニ通牒シ同委員ニ於テ獨逸僑ト交渉ノ上受領スルコト

該案ハ價格ノ高チ極低協定ニ所謂商業的基礎ニ置クモノナルモ
賠償委員カ受領スルコトハ政府力直接之ヲ受領スルモノナルコ
トヲ意味シ悉テ賣下ノ場合拂下ヲ豫想スルモノナルヲ以テ獨逸
僑ノ承認ヲ得ルコト困難ナルヘシ

(2) 大蔵省作成第二案

主ナル本邦染料製造業者販賣業者及消費者ヨリ成ル組合ヲシテ政府

監督ノ下ニ註文及賣下ヲナサシムルコト

本案ハ農商務省ニ於テ難色アリ同省ハ大日本染料會社保護ノ見地ヨリ同會社ヲシテ其ノ任ニ當ラシメ度キ希望アリ然レトモ一會社ニ獨占的ニ賠償染料ヲ取扱ハシムルコトハ競争者ノ關係及獨逸側ノ主張スル商業的基礎ノ見地ニ於テ適當ナリヤ否ヤ疑問アリ

石等ノ事情ニテ議議ラス遂ニ特別小委員會ニ附託スルコトトナレリ

大日本染料會社保護ノ見地ヨリ同省ハ大日本染料會社保護ノ見地ヨリ同會社ヲシテ其ノ任ニ當ラシメ度キ希望アリ然レトモ一會社ニ獨占的ニ賠償染料ヲ取扱ハシムルコトハ競争者ノ關係及獨逸側ノ主張スル商業的基礎ノ見地ニ於テ適當ナリヤ否ヤ疑問アリ

石等ノ事情ニテ議議ラス遂ニ特別小委員會ニ附託スルコトトナレリ

本件ノ採掘富業者トノ「コーオベレーシヨ」ノ問題ニ利用セ
 ハ帝國ノ染料政策ニ好都合ナル事應ヲ生セシムル見込ヲキニア
 ラス此ノ意味ニ於テ在本邦獨逸染料各名實社（獨逸染料代理店
 ノ組合ヲ指ス）ヲモ加ヘ「シンデケート」ヲ組織スルコトモ一
 策ナリ但シ此ノ場合ニハ製造業者（目下本邦ノ染料製造業者ハ
 大日本染料實社ト三井礦山實社ノ二社ノミ）ニ限ル必要アルハ

(二) 特別小委員會ノ審議

甲 第一回會合

二月二日大藏省ニテ賠償物件處理委員會特別小委員會ヲ開催シ前記
 大藏省作成ノ第二案ヲ審議ス
 農商務省平野次帥ノ談ニ依レハ

本件ヲ採掘富業者トノ「コーオベレーシヨ」ノ問題ニ利用セ
 ハ帝國ノ染料政策ニ好都合ナル事應ヲ生セシムル見込ヲキニア
 ラス此ノ意味ニ於テ在本邦獨逸染料各名實社（獨逸染料代理店
 ノ組合ヲ指ス）ヲモ加ヘ「シンデケート」ヲ組織スルコトモ一
 策ナリ但シ此ノ場合ニハ製造業者（目下本邦ノ染料製造業者ハ
 大日本染料實社ト三井礦山實社ノ二社ノミ）ニ限ル必要アルハ

シ義シ

(イ) 販賣業者ハ製造業者トハ利害相反シ寧ロ市場攪亂ノ希望ヲ有スルモノナルヲ以テ之ヲ加ヘテ組合ヲ組織スルコトハ獨逸國ヲ満足セシムル能ハサルノミナラス組合ヲ組織スルコトヲ得ル見込ナク將又

(ロ) 消費者側ヲ加フルコトハ差支ナキモ我國ニテハ問屋(販賣業者)一勢力ヲ占メ組合ニ加入セシムルニ適スルカ如キ有力ナル消費者側ノ團體ナケレハナリ

右ニ付テハ販賣業者ヲモ加ヘサレハ市場獨占ノ批難ヲ生スヘシトノ反對論モ出テ遂ニ議議マラス農商務省側ニテ再考スルコトトナレリ尙獨逸側提案ニ「組合ハ自己ノ手ニ在ル他ノ非賠償染料ト共ニ隨時

之ヲ買却スレ及七「紐合カ日本ニ於ケル在荷テ補充スル爲輸入スル
 染料ハ他ノ諸國ヨリノ輸入ト全然同一ノ條件ヲ以テ輸入ヲ許可セラ
 ルハシートノ二點ハ通商條約及染料保護政策ノ關係上到底賛成スル
 コト能ハサル處ナルヲ以テ獨逸トノ交渉ニ際シテハ先ツ日本側タケ
 ニテ組合ヲ組織スルノ案一諸國案ト同様一ヲ以テ近々前記賠償以外
 ノ染料ノ自由輸入ヲ排除スル交換條件トシテ前記組合ニ獨逸側ヲモ
 加盟セシムルコトトスルヲ適當ナリトナスノ意見モアリタリ

乙 第二回會合

二月七日第二回待病小委員會ヲ開催其ノ結果左ノ通決定セリ

（Faint, mostly illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page. Some legible fragments include: "染料ノ自由輸入", "交換條件", "賠償以外", "適當ナリトナスノ意見", "モアリタリ".)

二、其ノ旨ニ依リテ本邦ニ在リテ生産スル染料ノ輸入ノ制限ノ撤廃ニ向テ努力スルコトヲ要ス

三、其ノ旨ニ依リテ本邦ニ在リテ生産スル染料ノ輸入ノ制限ノ撤廃ニ向テ努力スルコトヲ要ス

四、其ノ旨ニ依リテ本邦ニ在リテ生産スル染料ノ輸入ノ制限ノ撤廃ニ向テ努力スルコトヲ要ス

五、其ノ旨ニ依リテ本邦ニ在リテ生産スル染料ノ輸入ノ制限ノ撤廃ニ向テ努力スルコトヲ要ス

六、其ノ旨ニ依リテ本邦ニ在リテ生産スル染料ノ輸入ノ制限ノ撤廃ニ向テ努力スルコトヲ要ス

七、其ノ旨ニ依リテ本邦ニ在リテ生産スル染料ノ輸入ノ制限ノ撤廃ニ向テ努力スルコトヲ要ス

八、其ノ旨ニ依リテ本邦ニ在リテ生産スル染料ノ輸入ノ制限ノ撤廃ニ向テ努力スルコトヲ要ス

九、其ノ旨ニ依リテ本邦ニ在リテ生産スル染料ノ輸入ノ制限ノ撤廃ニ向テ努力スルコトヲ要ス

十、其ノ旨ニ依リテ本邦ニ在リテ生産スル染料ノ輸入ノ制限ノ撤廃ニ向テ努力スルコトヲ要ス

四 賠償染料取得方法ニ關シテハ本邦染料關係者ヨリ成ル組合ヲ

組織セシメ(已ムヲ得スシテハ本邦ニ於ケル獨逸人ノ組合ノ

加入ヲモ認メ)之ヲシテ其ノ取得及販賣ヲ取計ハシムル方針

ヲ以テ組合設立方ニ付農商務省課長ニ於テ盡力スルコト

三 石井大使發各月二十八日外務省來電(第五(イ)案照)獨逸工業

組合代表者提案ニ應シテハ一應

(4) 賠償染料ノ取得及販賣ヲ獨逸人ノ組合ノミニ一任スルコト

ハ之ヲ承認セサルコト

(四) 賠償染料取得ノ爲メ染料輸入制限ノ政策ヲ變更セサルコト

ヲ前提トシ第一項ノ趣旨ニ基キ交渉ヲ進ムルコト

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

第十 石井大使ニ封スル訓令

前記ノ通賠償物汗處理委員會特別小委員會ニテ大禮賠償染料取得ニ
 關スル帝國ノ方針ヲ決定シタル結果關係官廳ト協議ノ上二月十二日
 在佛石井大使ニ封シ左ノ通訓令セリ

- (イ) 帝國トシテハ目下交渉中ナル染料輸入制限問題ヲ賠償染料引渡
 問題ト關聯セシムルコト並輸入染料ノ販賣ヲ獨逸ノ組合ニ一
 任スルコトハ染料保護政策上承認シ難シ
- (ロ) 尤モ獨逸側ニ於テ主張スル日本政府ノ入札第下ヲ行ハサルコ
 トニ付テハ別段ノ異存ナキヲ以テ前記ノ獨逸組合ニ代フルニ
 別個ノ組合又ハ其他ノ機關ヲ設クルコトニ付テハ目下考慮中

ナリ

右議院ノ内容即チ組合ヲ組織スル場合ニ於テハ染料製造業者ノ外ニ販賣業者ヲモ加フヘキヤ將又獨逸國ノ商人ヲ加フヘキヤ等ニ付テハ農商務省ニ於テ目下染料保護法案（現ニ農商務省ニテ採用セル保護ハ大正十四年十月限りニテ廢止セラル）ヲ帝國議會ニ提出準備中ナルヲ以テ該法案通過ニ至ル迄ハ外部ニ發及スルコトヲ絶對ニ希望セサル次第ニ付テ御會ノ上端邊際トノ折衝方可然御取計相成度シ

(イ) 尙獨逸國ノ提案ノ二「獨逸染料組合カ引渡ノ能不能ヲ回答スルコト」ニ關シテハ故意ニ獨逸國ニ於テ引渡ヲ妨クルカ知キコトヲキ疎重當ナル保障取付方御措置アリタシ

第十一 獨逸側トノ交渉經過

二月十六日在佛石井大使ハ獨逸染料組合代表者ノ來巴ヲ礙トシ同代表者ニ對シ賠償染料取得ニ關スル前項帝國政府ノ訓令ノ次第ヲ説明セシメタル處組合代表者ハ本邦ノ染料ニ對スル輸入制限令カ獨逸ニノミ適用セラレ居ル事實ヲ權トシ態度強硬ニシテ制限令ノ撤廢ヲ見サル限り交渉ニ應シ雖シト唱ヘ交渉進マス又獨逸側ハ仲裁裁判ニ訴フルコトヲモ辭セスト逃ヘ居ル次第ニテ近キ將來ニ交渉進捗ノ見込ナキニ付不取敢「ドーズ」年次金第一年度ノ取分額全部ハ千九百二十四年度生産染料ヨリ取得スルコトトシタルコトハ既ニ「ドーズ」年次金第一年度分ノ本邦賠償取分額取得ノ經過ニ述ヘタルカ如シ

而シテ本邦ノ權利殘額百二十萬金貨麻ヲ染料ニテ取得スルニ付テハ之

ヲ尙遊働トノ協定ニ俟タサルヘカラス尙賠償勅定ヲ利用シ無線電信
機取得ノ件ニ付テハ目下關係官廳ト協議中ナリ

（Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is arranged in vertical columns and is too light to transcribe accurately.)

第十二 染料取得ニ關スル各國ト獨逸側トノ協定

染料取得ニ關スル獨逸側ト關係各國間ノ交渉ハ進捗シ孰レモ略々協定ノ成立ヲ見タルカ如シ

(一) 獨逸賠償染料引渡協定案

倫敦協定ニ基ク賠償染料引渡ニ關シ佛國側ハ「伊太利モ同様」獨逸側ノ要求ニ依リ新ニ染料消費者ノミヲ以テ組合ヲ組織シ之ヲ以テ染料受領機關トスルコトニ同意シ近々獨逸染料組合ト佛國染料消費者ノ組合トノ間ニ協定成立スル見込ナルカ右協定案左ノ通

(第十六參照)

協定案

×(消費者ノ團體)ヲ代表スル、
氏ト

左記ノ會社ヲ包含スル Interessengemeinschaft der deutschen

Gerberfabriken

(以下I、Gト稱ス)ヲ代表スル「ゲー、フォン、ヴァインベルヒ」
氏トノ間ニ左記ノ協定ヲ締結セリ

- Actiengesellschaft für Milchfabrikation, Berlin
- Judische Milch- und Soda Fabrik, Ludwigshafen
- Jahnsche Fabrik Orlesheim-Elektron, Frankfurt
- Jahnsche Fabrik vorm Jeller-tar-lieer, Nordlingen
- Karbenfabrikation vorm. Friedr. Meyer & Co. Mevorkusson
- Lebwerke vorm Meister Tuoius & Arhning, Frankfurt a.M.
- Mopold Cassella & Co, O.M.J. H. Höchst s.M.

Faint, illegible text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

Kalle & Co. A. O. Biberich a. Rh.

Parbwerk Wilhelm, vorm. A. F. Schmidt & Co. AMMelsin a. M.

Carl Jaeger N. D. b. T. Dasseldorf

Milzins Dahl & Co. A. O. Barmen

第一條

I G ハ佛蘭西ノ消費者ニ必要ナル一切ノ染料並ニ染色及印刷ノ附屬
製品ヲ賠償勘定ニ於テ×ニ供給スルコトヲ約ス消費者ノ發スル注文
ハ各自ノ工場ニ於テ消費セラルルコトノミヲ目的トスル染料及附屬
製品ノ數量及品質ニ限ルモノトス而シテ再販賣又ハ再輸出ハ禁セラ
ル然レ共消費者ニ於テ注文シタル一定ノ製品ノ必要ナキニ至リタル
場合ニ於テハ第二條ニ掲クル中央事務所ノ許可ヲ得テ之ヲ組合員ニ
譲渡シ若クハI G ノ他ノ製品ト之ヲ交換スルコトヲ要求スルコトヲ
得

第二條

本協定ヲ實施スル爲×ハ中央事務所ヲ設置スヘシ該事務所ハI G ト

協議ノ上佛蘭西國ノ消費者ノ需要ニ對シ最モ有利ナル商業條件ニテ
第一條ノ實施ヲ確保スヘシ

中央事務所ハ左記ノ任務ヲ有スルモノトス

- (イ) 佛蘭西國ノ消費者ノ注文ヲ接受スルコト
- (ロ) 右注文ヲ履行スル爲メ之ヲI Gニ移牒スルコト
- (ハ) I Gニ依リ引渡サレタル商品ノ支拂ニ該當スル支拂取扱人宛ノ
手形ヲI Gニ移牒スルコト

I Gハ義務ヲ受ケタル注文ヲ審査シ且必要アルトキハ其ノ履行ノ條
件ニ關シテ中央事務所ト協議ヲ爲スヘシ

I Gニ對シテ右ノ履行ヲ容易ナラシムル爲且双方一致ノ協議ニ依リ
テ必要アリト認めラレタルトキハ中央事務所ハ三ヶ月毎ニ消費者ニ

付テ調査シタル後次ノ三ヶ月間ニ於ケル消費者ノ豫測的需要數量ヲ
定ムヘシ但右數量ハ注文ノ確定的約束トIGニ依リ認ムルコトヲ得
サルモノトス

第三條

IGカ賣價ヲ決定スルニ付テハ商價習條件ヲ以テ唯一ノ基礎ト爲ス
ヘク一切兵ノ他ノ考慮ヲ爲スヘカラサルモノトス

第四條

IGハ各引渡ニ對シテX宛ノ仕切狀ヲ調製スヘシIGハ各句中ニ作
製シタル仕切狀ノ一覽表ヲ作製シテ移譲スヘシXハ毎旬正確ナリト
認メラルル仕切狀ノ額面金額ニ對シ右ト同額ノ協同西國ノ正式代表
者ノ簽署セル支拂取扱人宛一覽表ノ手形ヲIGニ送付シテ支拂ヲ為

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

スヘシ

第五條

本協定ハ一九二五年一月一日ヨリ實施セラルヘク染料ニ關スル倫敦ノ協定ノ第二附屬書第二條項(一)ノ規定カ有效ナル限リ續續スルモノトス但シ本協定ノ名義ニテ爲ス註文ノ權利ハ一九二八年八月十五日限リ消滅スルモノトス

(二)獨逸染料組合ト英吉利國政府トノ間ノ協定

英國政府ハ獨逸染料組合ト交渉ノ結果左記ノ協定案ヲ作成シタルカ植民地ヘノ再輸出ニ關スル條項其他二三ノ點ニテ未タ決定スルニ至ラス(第十六參照)

賠償染料取得ニ關スルI、G、ト英吉利國政府
トノ間ノ協定(案)

第一條項

Imperial Government der Deutschen Reichsregierung

(以下I、Gト稱ス)ハ英吉利國內ノ消費又ハ本協定
實施中英吉利國ノ自治領及植民地ニ再輸出ノ爲要求セラルル染料並
ニ染色及印刷ニ使用セラルル中間物ノ全部ヲ千九百二十四年八月三
十日ノ倫敦協定ニ基キ賠償勅定ニテ供給スルコトヲ約ス

第二條項

倫敦協定第二附屬書第二條項ニ定メラレタル必要品ノ計畫書ノ供給
ハ必要ナリトズルモ斯クシテ除去セラルルヘシ英吉利國政府ハ右總必

要品ノ一ケ年ノ價格ノ見積ヲI、Gニ供給スヘシ

第三條項

本協定ニ基キ引渡カ要求セラルル時ハ英吉利國政府ハ每三ケ月間ノ染料表ヲI、Gニ供給スヘク右ノ表中ヨリ相當ナル數量ハ次ノ三ケ月間内ニ本協定第四條項ノ規定ニ從ヒ免許ニ依リ英吉利國內ニ輸入ヲ許可セラルヘシ

第四條項

本協定ニ基キ供給セラルル染料及中間物ハ總テ千九百二十年ノ染料法（輸入規則）ノ規定又ハ英吉利國內ニ輸入スル染料ニ付制定セラレタル其他ノ現行法ニ從フヘク且右ノ法規ニ依リテ定メラレタル普通ノ規則及手續ニ從ヒテ取扱ハルヘシ

第五條項

本協定ニ基ク一切ノ引渡ハI Gト英吉利國內ノ各契約當事者間トノ各個ノ契約ニ依ルヘシ三ヶ月間内ニ契約完了セサル場合ニハ該契約ニ對シ與ヘラレタル免許ハ之ニ記載セル數量ノ引渡ヲ可能ナラシムル爲メニ三ヶ月ヲ超過セサル期間ニ付稟料諮問免許委員會ノ承認ヲ經ヘシ

第六條項

多數ノ購買者ト小額ノ個別契約ヲ締結スル實際上ノ困難ニ鑑ミ第四條項ニ掲クル契約當事者中ニハ英吉利國內ノI、G、ノ正當代表者ヲ包含スルコトヲ得右代表者ハ本協定ニ基キ購買者トシテ行動スルコトヲ得右ノ場合I、G、ノ正當代表者ハ英吉利國政府又ハ同代表

者カ代理シ一切ノ購買者ニ對シ直接爲ササル一切ノ引渡ニ付英吉利
 國政府ニ對シ責ニ任スヘク且I、Gハ第七條項ニ掲クル其ノ正當代
 表者ノ財政上ノ安定ヲ保障スヘシ

第七條項

第六條項ニ掲クル取極ノ運用ヲ容易ナラシムル爲I、G、ハ英吉利
 國內ノ代表ヲ集中シ且本協定ヨリ生スル問題ニ付英吉利國政府ト直
 接商議シ得ヘキ中央機關ヲ設置スル爲措置ヲ執ルヘシ

右ニ至ル間I、Gハ本協定ノ目的ノ爲英吉利帝國内ノ正當代表者ト
 シテ左記ヲ指命ス即チ

右正當代表者ハ變更ハ時カI、G、ヨリ英吉利國政府ニ通知スヘシ

第八條項

本協定ニ基キ供給セラルル一切ノ生産物ハ英吉利帝國內ニ於テノミ
消費セラルルモノトス且英吉利國政府ハ第二附屬書第二條項(一)第二
項ニ規定セラルル約束ニ從ヒ受領シタル引渡物品ノ再輸出ヲ出來得
ル限リ防止スヘシ

第九條項

左記ノ手續ハ本協定ニ基キ供給セラルル一切ノ物品ニ付キ適用セラ
ルヘシ

(一)英吉利國政府ハ購買者ヨリ物品ノ仕切狀價格全額ノ支拂ヲ受クヘ
キ代表者ヲ指命スヘシ右代表者ハ引渡ノ成サレタルコトニ付満足
スルニ必要ナリト思量スル書類ノ提出ヲ契約當事者ニ要求スヘシ
英吉利國政府ハ受領シタル全額ノ價格ニ對シ支拂取扱人宛ノ手形

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

ヲ十日毎ニI、G、ニ送附スヘシ該手形ハ磅ヲ以テ振出サルヘク
 且支拂日ノ伯林取引所ノ相場ヲ以テ支拂取扱人ニ依リ「ライヒス
 廉ニ換算セラルヘシ

(回)英吉利國政府ハ支拂取扱人宛ニ振出サレタル手形ノ番號及金額ヲ
 十日毎ニ賠償委員會ノ事務局ニ通知スヘシ

(イ)消費者並(イ)ニ規定セラルル正當代表者ニ依リ支拂ハレタル金額カ
 伯林ノ支拂取扱人カ英吉利國ノ爲處分シ得ヘキ總額ヲ超過スル場
 合ニハ英吉利國政府カ受領シタル金額中ノ右ノ超過額ハ毎十日間
 ノ定期ニ英吉利國政府ニ依リ直接ニI、G、ニ支拂ハルヘシ

第十條項

滿印ノ日ヨリ效力ヲ發生スル本協定ノ施行ハ其停止ヲ終止セシムル

Handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through.

一九三八年八月二十八日迄ノミトス

第十一條項

本協定ハ倫敦協定ニ基キ任命セラレタル實物引渡ニ關スル特別委員
會ヲ經由シ賠償委員會ニ提出セララルヘシ

本協定ハ倫敦協定ニ基キ任命セラレタル實物引渡ニ關スル特別委員
會ヲ經由シ賠償委員會ニ提出セララルヘシ

本協定ハ倫敦協定ニ基キ任命セラレタル實物引渡ニ關スル特別委員
會ヲ經由シ賠償委員會ニ提出セララルヘシ

爲英吉利國政府カI、G、ニ豫告ヲ與ヘタル以後三十日間停止セラ
ルヘシ

本協定ハ孰レカ一方ヨリ三ヶ月間ノ豫告ヲ以テ取消シ又ハ雙方ノ合
意ニ依リテ變更スルコトヲ得如何ナル場合ニ於テモ有効期間ハ千九
百二十八年八月二十八日迄ノミトス

第十二條項

本協定ノ解釋又ハ適用ニ關スル一切ノ紛争ハ最終的ノ決定ヲ求ムル
爲千九百二十四年八月三十日倫敦協定第二附屬書第二條項(一)ニ
規定セララルル仲裁委員會ノ仲裁ニ附セララルヘシ

第十三條項

本協定ハ倫敦協定ニ基キ任命セラレタル實物引渡ニ關スル特別委員
會ヲ經由シ賠償委員會ニ提出セララルヘシ

本國政府ハ賠償請求ニ關シテ前記ノ如クシテ之ヲ直接請求スル事ハ本國政府ノ義務ニ非ズ

本國政府ハ賠償請求ノ手續ニ關シテ一國ノ賠償請求ハ前記ノ如クシテ之ヲ直接請求スル事ハ本國政府ノ義務ニ非ズ

本國政府ハ賠償請求ノ手續ニ關シテ一國ノ賠償請求ハ前記ノ如クシテ之ヲ直接請求スル事ハ本國政府ノ義務ニ非ズ

白獨逸染料組合ト伊太利國政府トノ協定

獨逸染料組合ト伊太利國政府間トノ左記協定案ハ四月一日附テ以テ同國賠償委員ヨリ提出賠償委員會ハ四月三日ノ庶務委員會ノ決議ヲ以テ白耳義國政府ノ提案同様ノ條件ヲ附シテ之ヲ承認ノ上賠償支拂取扱人ニ支拂方ヲ通牒スヘキ旨決定セリ

賠償勸定ニテ伊丸利國政府ニ染料引渡ニ關スル
 商業協定
 専門家教授「エルネスト、ベエロニイ」ニ依リ代表セラルル伊太利
 國政府ト「カール、フオン、ウエインベルク」氏ニ依リ代表セラル
 ル獨逸國染料工場（I、G）トノ間ニ染料ニ關スル倫敦議定書（「
 ドーズ」案）第三編第二附屬書（A）ヲ實行スル爲左記ノ協定ヲ締結ス
 本協定ハ前記ノ附屬書ト同期間存續スヘシ如何ナル場合ニ於テモ締
 約當事者間ノ特別ノ合意ナキ限千九百二十八年八月十五日以後ニ及
 ハサルモノトス
 後者ハ本協定ハ倫敦議定書ニ規定セラルル純然タル商取引ノ基礎ニ
 於テ定ノラレタルコトヲ承認シ且ツ本協定ノ實施ハ同様ナル原則ニ

此の協定は、染料の引渡に關するものとして、
 伊太利國政府と獨逸國染料工場との間に締結されたものである。
 協定の目的は、染料の引渡を促進し、貿易の発展に寄与することである。
 協定の範囲は、染料の引渡に關するものである。
 協定の期間は、千九百二十八年八月十五日以後である。
 協定の条件は、倫敦議定書の第三編第二附屬書（A）に規定されている。
 協定の締結は、専門家教授「エルネスト、ベエロニイ」に依り代表せられたる伊太利國政府と、
 「カール、フオン、ウエインベルク」氏に依り代表せられたる獨逸國染料工場との間に締結されたものである。

從ヒ爲サルヘキコトヲ約ス

第一條

I、G、ハ伊太利國ノ消費者力要求スル染料並ニ染色及印刷ニ必要ナル中間物ヲ賠償協定ニテ伊太利國政府ニ供給スルコトヲ約ス但シ受領シタル生産物ノ再輸出ヲ爲スコトヲ除外スルコトヲ條件トス

第二條

伊太利國政府ハ千九百二十四年三月八日ノ法令第一四二七四三ニ基キ設置セラレタル「コンミイタト、テクニコ、ミニステリアル」ニ本協定實施ニ關スル一切ノ措置ヲ委託スヘシ

特ニ「コンミイタト、テクニコ、ミニステリアル」ハ染料ニ對スル注文テI、Gニ送付シ且ツ第一條ニ基キテ爲サル引渡ヲ受領シ且

ツ 茲ニ企圖シタル註文ニ對スル仕切狀ノ差額ヲ實物引渡特別委員會
 ノ勸告ニ基キ賠償委員會ニ依リテ定メラルヘキ手續ニ從ヒ賠償支拂
 取扱人宛ノ手形ヲ以テ支拂ヲ爲スヘシ

第三條

締約當事者ハ本協定ノ實施カ競争ノ狀態ニ至ラシムヘカラサルコト
 ヲ承認シ且ツ右ハ「コンミイタト、テクニコ、ミニステリアル」ト
 I、Gトノ間ニ販賣ヲ調節スヘキ取極ノ方法ニ依リ防止スル必要ア
 ルコトヲ合意スI、G、ハ手許在荷高ノ範圍内ニテ且ツ柏林ニ於ケ
 ル賠償取扱人ニ委託シタル資本ニテ賠償協定ノ實行ノ爲I、G、カ
 其ノ伊太利ノ消費者ヨリ直接受領シタル註文ヲ「コンミイタト、テク
 ニコ、ミニステリアル」又ハ其ノ販賣ノ事務ヲ委託スヘキ一切ノ分

95

（Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is mirrored and difficult to decipher.)

(四) 白耳義國政府ト獨逸染料組合トノ協定
 獨逸染料組合ト白耳義國政府トノ間ニハ己ニ客年十二月三十一日附
 ヲ以テ左記協定案成立シタルカ白耳義國政府ハ新協定ヲ急速ニ實施
 シタキ希望ヲ以テ賠償委員會ニ對シ特ニ白耳義國政府案ノ單獨審議
 チ申出タリ

賠償委員會庶務委員會ハ實物辨濟特別委員會及引渡委員會ノ意見ヲ
 徴シタル上(一)契約ノ内容ヲ審議スルコトニ影響セラルコト(二)引渡委
 員會ハ異議ナキコト(三)支拂取扱人ノ手許ニ在ル白耳義國政府ノ資金
 ニ不足アル場合ニハ右不足額ハ白耳義國政府カ現金ニテ支拂フコト
 ノ條件ヲ附シテ可決セリ

賠償染料引渡ニ關スル白耳義國政府ト獨逸染料組合トノ協定

千九百二十五年三月二十三日 獨逸ニ又一過可決一
 條件一級ヲ附テ

本協定案ハ白耳義國政府ト獨逸染料組合トノ間ニハ己ニ客年十二月三十一日附
 ヲ以テ左記協定案成立シタルカ白耳義國政府ハ新協定ヲ急速ニ實施
 シタキ希望ヲ以テ賠償委員會ニ對シ特ニ白耳義國政府案ノ單獨審議
 チ申出タリ

1871年...
 1872年...
 1873年...
 1874年...
 1875年...
 1876年...
 1877年...
 1878年...
 1879年...
 1880年...
 1881年...
 1882年...
 1883年...
 1884年...
 1885年...
 1886年...
 1887年...
 1888年...
 1889年...
 1890年...
 1891年...
 1892年...
 1893年...
 1894年...
 1895年...
 1896年...
 1897年...
 1898年...
 1899年...
 1900年...

- L. Cesseille & Co. G. m. b. H. Frankfurt a. M.
- Färbefabrik von Fr. Beyer & Co. Leverkusen.
- Färbewerke von Hülster undius & Brühning. Höchst a. M.
- Kalle & Co. A. G. Bielefeld a. Rh.
- Färbwerke Wilhelm von L. Leonhardt & Co. Wilhelmsh. a. M.
- Carl Weger G. m. b. H. Dusseldorf
- Mülling Dahl & Co. A. G. Barmen

22

第一條

I、 O ハ白耳義ノ工業家ニ必要ナル一切ノ染料、染色及印刷ノ附屬製品ヲ賠償勘定ニテ白耳義國ニ供給スルコトヲ約ス但シ輸出ヲ目的トシテ行ハルル一切ノ販賣ハ如何ナル名義ヲ以テスルヲ問ハス之ヲ除ク

第二條

I、 O ハI、 O ヲ代表シ本取極ニ關スル一切ノ問題ニ付直接白耳義政府ト交渉スヘキ一事務所ヲ「ブリユツクセル」ニ設クヘシ
 白耳義政府ハ左記ノ任務ヲ畜スル監督官ヲ右事務所ニ派出スヘシ
 1、白耳義國政府ノ爲ニ行ハレタル販賣ニ關スル帳簿ノ検査
 2、I、 O ノ所有ニ係ル商品ノ倉庫ノ検査

ろ、白耳義國政府ニ對スル本協定ノ誠實ナル履行ノ監督

第三條

I、Gハ白耳義ニ於テ前掲製品ノ倉庫ヲ設クヘシ第二條ニ規定セラレタル事務所ハ右倉庫ノ在庫品ノ認證目錄ヲ三ヶ月毎ニ或ハ更ニ協定スヘキ期間毎ニ調製スヘク白耳義國政府ハ隨寧之ヲ検査スルコトヲ得ヘシ

右在庫中ノ製品ハI、Gノ財産ト看做サルヘク従テ本協定ノ存続期間中白耳義政府ニ於テ之ヲ以テ差押ノ如キ手續ノ目的物ト爲スコトヲ得ス

I、Gハ本協定ノ期間滿了ノ時ニ於ケル在庫品ヲ自田ニ處分シ得ヘク場合ニ依リテハ之ヲ如何ナル目的地ニ對シテモ再輸出スルコ

Handwritten text in Japanese, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through.

トヲ得ヘシ右ニ對シ白耳義國政府ハ何等ノ制限的手段ヲ執ルコトナカルヘシ

第四條

製品ハ賠償勸定ニ於テ販賣セラルヘキモノナルヲ以テ當然現行ノ輸入許可ノ利益ヲ享有スヘシ而シテ賠償勸定ノ染料以外ノ製品ニ對スル輸入許可ハ其ノ原産地ノ如何ニ拘ラス引續キ與ヘラルヘシ
現行ノ關稅制度カ變更セラルル場合ニ於テハ白耳義政府ハ賠償ノ染料ニ關シテ採ルヘキ措置ニ付I、Oノ會社ニ諮問スルコトヲ約ス

第五條

I、Oハ特ニ買主ノ信用ニ關シテハ普通ノ商慣習條件或ハ一般狀況上必要ナル條件ニ於テ製品ヲ販賣スヘシ支拂ハ白耳義國政府ノ指定

主として... (Faint vertical text, likely bleed-through from the reverse side)

... (Faint vertical text, likely bleed-through from the reverse side)

スル金庫ニ買主直接之ヲ爲スヘシ右ノ如ク爲サレタル支拂總額ハ毎
 旬之ヲ調査シI、 θ ニ之ヲ通知スヘシ白耳義國政府ニ支拂ハレタル
 金額ハ必要アルトキハ各日ノ支拂ニ對シ同日ノ「ブリユツクセル」
 取引所ノ相場ヲ以テ金「マルク」ニ換算セラルヘシ
 I、 θ ハ右相當額ノ手形ヲ發行スヘク白耳義國政府ノ正式代表者ハ
 之ヲ裏書シ白耳義政府ハ其ノ正規ノ支拂ノ爲ニ必要ナル手段ヲ採ル
 ヘシ

第六條

支拂取扱人ノ手許ニ於ケル白耳義政府ノ現金カ一時白耳義政府力受
 取りタル金額ノ對價ヲ獨逸工場ニ支拂フニ不充分ナル場合ニ於テハ
 白耳義政府ハ右現金ヲ超過シテ受取りタル金額ヲI、 θ ノ處分ニ

自耳義國政府ハ本協定ニ依リテ整理セラルヘシ右在庫品ノ一九二四年十二月三十一日現在ノ目録ハI、IIノ工場ニ通報セラルヘシ

第六條

本協定ハ一九二五年一月一日ヨリ實施セラルヘク倫敦協定ノ規定ニ從ヒ且右協定ノ創設シタル制度ニ對シテ正式ニ齎ラスコトアルヘ

委スヘシ右ノ支拂ハ白耳義「法」ニ於テ行ハルヘシ
支拂取扱人ノ手許ニ於ケル白耳義國政府ノ現金カ三ヶ月以上ノ備染料ニ對スル支拂ヲI、IIニ爲スニ足ラサルトキハI、IIハ右支拂カ前條ニ規定セラルル手續ニ從ヒ正常ニ行ハルルニ至ル迄其ノ在庫品及販賣ニ關シテ自由ナル處分ヲ行フコトヲ得ヘシ

第七條

白耳義國政府カ一九二三年一月一日ニ所有スル賠償在庫品ノ狀態ハ別個ノ協定ニ依リテ整理セラルヘシ右在庫品ノ一九二四年十二月三十一日現在ノ目録ハI、IIノ工場ニ通報セラルヘシ
本協定ハ一九二五年一月一日ヨリ實施セラルヘク倫敦協定ノ規定ニ從ヒ且右協定ノ創設シタル制度ニ對シテ正式ニ齎ラスコトアルヘ

キ一切ノ變更ヲ留保シテ一九二八年八月十五日迄繼續スルモノトス
 本協定ハ批准ノ目的ヲ以テ白耳義國及獨逸國政府ニ提出セラルヘク
 且參考ノ爲賠償ニ付權限アル部ニ通報セラルヘシ
 第十 白耳義國政府染料交渉委員「フリック」氏ヨリ本邦ト獨逸
 染料組合トノ協定ノ基礎トシテ示シ來レル參考案左ノ如シ

（Faint, mostly illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page. Some words like '協定' and '染料' are faintly visible.)

ト不可能ナルヘシト信ス如何トナレハ斯ノ如キ方法ハ畢竟商業的ニ非サレハナリ

右ノ如クニシテ販賣セラレタル染料ハ獨逸ノ製賣者ニ依リテ購買セラレ獨逸ノ利益ニ反シテ利用セララルコトアルヘク且一方斯ノ如キ染料ハ入札ノ場台ニ於テ常ニ見ル如ク仲買人ニ依リテ安價ニ購買セラレ後ニ獨逸ニ運出ニテ再ヒ販賣セラレ獨逸市場ヲ擾亂スルニ至ルヘシ

日本政府自身ノ利益ヨリ論フモ日本力人種ノ結果トシテ賠償額定ニ於ケル日本ノ借方ノ増減ヲ待ル能ハサルコトニ關シテハ百中九十九以上ノ確言アルヘキヲ以テ余ハ斯ノ如キ方法ハ探ルヘキニ非サルコトヲ注告スルノ要アルヘシト信ス

Handwritten text on the reverse page, mostly illegible due to fading and bleed-through from the other side.

從來日本カ賠償勘定ニ於テ染料ヲ注文スルノ權利ヲ行使シタルコトハ甚メテ稀ナリ從テ日本ノ市場ハ自由ナル取引ニ依リテ供給セラレ居リタルコトハ注意スヘキコトナリ故ニ日本カ特殊ノ制度ヲ設ケテ賠償勘定ニ於テ注文スヘキ何等正當ナル經濟的理由ハ存在セサルモノト見ルヘク從テ日本ハ商業的ニ取引ヲ爲ス何等ノ障礙ヲ有セサルモノト認フヘキナリ

余ハ純商業的解決方法トシテハニアルノミト信ス

第一ノ方法ハ日本政府カ日本ニ於テ使用セラルル種類ノ染料ノ一定量ヲ購入シ且IGニ對シテ再輸出セサルヘキ保證ヲ與ヘテ之ヲ工業家ニ賣却スルニ在リ

然レトモ保護ヲ要スル大染料工業ノ存在セル國ニ於テハ右ノ如キ

Handwritten text on the right page, appearing as bleed-through from the reverse side. The text is dense and written in vertical columns.

方法ハ勸告シ難キ所ナリ實ニ斯クノ如キ方法ハ日本政府ヲシテ畢竟
高價ナルヘキ販賣事務所ヲ設置スルコトヲ要セシメ賣殘リ、市價下
落ノ場合ニ於ケル損失ノ危険ヲ冒サシメ且保管料、保險料、仲買人
ノ手数料等ヲ負擔セシムヘシ

右ノ方法ハ今日ニ至ル迄平和條約ノ舊條件カ他ノ方法ヲ許ササリ
シ關係上白耳義ニ於テ實施セラレタル方法ト類似セルモノナルヲ以
テ余ハ充分事情ヲ知悉シテ私見ヲ述フルコトヲ得ト信スルモノナリ
而シテ其ノ結果ニ關シテハ不滿ヲ稱フヘキモノナキハ事實ナリト雖
御承認ノ如ク吾人ハ新タナル事情ヲ利用シテ一步ヲ進メ現下ノ經濟
狀態ニ於テハ一層實際的ニシテ且一層商業的ナル方法ヲ採擇シタリ
白耳義協定ハ其ノ實質ニ於テハ一ベメルマンズル協定ヲ染料ニ適

日本ハル、Gニ封シテ始借囑定ニ於ケル日本ノ權利ニ損害セシ
 蓋ノ染料ヲ注文スヘシ

合セシメタルモノナリ獨逸ノ製造家ハ一定ノ監理ノ下ニ販賣ヲ爲シ
 而監理政府カ長上金ヲ徴收スルナリ
 余ハ全然個人前ナリト雖一ノ意見ヲ食下ニ呈スルニ先タチ誤ニ陥ル
 ノ危険ヲ殆マサランカ爲非公式ニ、Gヨリ悉ク已ニ食下ニ提出セ
 ラレタル管ナル原動機提案ヲ知ルニ至リタリ而シテ余ハ誤案ニ懸念
 ハ日本ニ取りテ有利ナル協定ノ案ニ爲スヘク日本ハ何等ノ危險ヲ
 冒スモノニ非サルコトヲ信スルモノナリ
 同案ニ依レハ

日本ハル、Gニ封シテ始借囑定ニ於ケル日本ノ權利ニ損害セシ
 蓋ノ染料ヲ注文スヘシ

右染料ノ賣價ハ「ハンブルグ」沖渡ニテ建テラルヘク I、G ハ
 其ノ引渡品ニ對シテ發送ニ關スル諸證券等ヲ提出シテ賠償支
 拂取扱ハヨリ支拂ヲ受クヘシ

貨物ハ日本政府ノ費用及危險ニ於テ輸送セラルヘシ若貨物ハ
 日本ニ到着スルト同時ニ I、G ノ代理人ニ引渡サルヘク右代
 理人ハ其ノ販賣ヲ司ルヘシ

右貨物カ賣却セラルト否トテ間ハス日本政府ハ運ヲ協定
 スヘキ期間内ニ於テ左記ノ支拂ヲ受クヘシ

(A) 賠償支拂取扱人カ I、G ニ支拂ヒタル金額ノ對價

(B) 賠償支拂取扱人カ運賃及保險料ノ爲ニ立替ヘタル金額

斯クノ如キ方法ノ利益ハ日本カ何等ノ危險ヲ冒スコトナクシテ賠
 償勘定ニ於ケル權利及諸支出ノ對價ヲ受取ルコトニ在リ

Handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through.

自給家ニシテ其ノ對外ニ販賣セシメ、國産モ支障ナク、其ノ他ニ
運送ノ便ヲ謀リ、陸運ハ日本ニ於テ亦、陸運ノ便ヲ謀リ、其ノ他ニ

海運ノ便ヲ謀リ、其ノ他ニ

陸運ノ便ヲ謀リ、其ノ他ニ

海運ノ便ヲ謀リ、其ノ他ニ

陸運ノ便ヲ謀リ、其ノ他ニ

海運ノ便ヲ謀リ、其ノ他ニ

陸運ノ便ヲ謀リ、其ノ他ニ

海運ノ便ヲ謀リ、其ノ他ニ

陸運ノ便ヲ謀リ、其ノ他ニ

海運ノ便ヲ謀リ、其ノ他ニ

陸運ノ便ヲ謀リ、其ノ他ニ

海運ノ便ヲ謀リ、其ノ他ニ

若シ日本政府ニ於テI、Gカ拂戻ヲ行フニ足ル取引高ヲ擧ケサルノ
懸念(余ハ杞憂ナリト信スレトモ)ヲ去ラムト欲スルニ於テハ貴下
ハ斯ル場合ニ於テハ日本ニ於ケル獨逸ノ在庫品中ヨリ日本政府ノ權
利ニ相當スル額ノ染料ヲ押收スルコトヲ得ヘキコトヲ附加スルコト
ヲ得ヘシ

然レトモ事實上I、Gハ注文品カ販賣セラレサルトキニ於テモ獨逸
ノ賣上ノ總額ニ對シテ日本政府ニ拂戻ヲナスヘキモノナルヲ以テI
Gハ保護手段ヲ要求スルモノニ至ラサル迄モ少クトモ日本ニ於ケル
染料工業保護ノ爲ニ存スル制限ヲ除キテハ自由ニ商取引ニ於テ何等
特殊ナル制限ノ適用ヲ受クルコトナカルヘシト爲スハ當然ノ事ト謂
フヘキナリ

尙参考トシテ實物辨濟部特別委員會獨逸僑委員「クンツエ」氏ハ客
 年十一月七日同委員會々議ニ於テ左ノ要旨ノ聲明ヲナシタリ
 爲教協定ニ基ク實物辨濟方法ニ關シ獨逸側ノ希望ハ大体從來ヨリ
 有シ居レル「ベノールマン、クンツエ」協定ヲ基礎トシ爲教協定
 及「ドーズ」案ノ規定ニ依リ必要ナル改訂ヲ之ニ施サントスルモ
 ノニシテ引渡物品ノ制限ニ關シテモ「ドーズ」案ノ趣旨タル「獨
 逸産原料、獨逸勞働ニヨル産物」ナル原則ヲ嚴格ニ適用スルノ不
 便アルヲ認メ「ベノールマン」協定同様輸入品ヲ原料トスル生産
 物ニ付テハ其ノ價格ノ一部ヲ受領國ヨリ現金ヲ以テ支拂ハシメ之

「クンツエ」氏カ實物辨濟部特別委員會議ニテ
 爲セル聲明要旨
 尙参考トシテ實物辨濟部特別委員會獨逸僑委員「クンツエ」氏ハ客
 年十一月七日同委員會々議ニ於テ左ノ要旨ノ聲明ヲナシタリ
 爲教協定ニ基ク實物辨濟方法ニ關シ獨逸側ノ希望ハ大体從來ヨリ
 有シ居レル「ベノールマン、クンツエ」協定ヲ基礎トシ爲教協定
 及「ドーズ」案ノ規定ニ依リ必要ナル改訂ヲ之ニ施サントスルモ
 ノニシテ引渡物品ノ制限ニ關シテモ「ドーズ」案ノ趣旨タル「獨
 逸産原料、獨逸勞働ニヨル産物」ナル原則ヲ嚴格ニ適用スルノ不
 便アルヲ認メ「ベノールマン」協定同様輸入品ヲ原料トスル生産
 物ニ付テハ其ノ價格ノ一部ヲ受領國ヨリ現金ヲ以テ支拂ハシメ之

方引渡ヲ實行セントシ居リ實物辨濟特別委員會モ大体之ヲ承認セ
ントスル意嚮ナリ

（Faint, mostly illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page. Some characters are difficult to discern but appear to be in vertical columns.)

第十五 實物辨濟手續制定特別委員會

倫敦協定第二附屬書第三項ノ規定ニ基キ設置セラレタル特別委員會
 (獨逸國政府ト賠償委員會トノ非公式取極ニ依リ同盟國及獨逸側各
 四名ノ委員ヲ以テ構成セラル)ハ客年十二月六日第一回ノ會合ヲ開
 催(議長ベメルマン氏)シタルカ第四回ノ會議ニ於テ倫敦協定ニ規
 定セラレタル中立國人ヲ任命スルノ必要ヲ認メ瑞典人「ワレンベル
 グ」氏ヲ任命シ且全會一致ヲ以テ同氏ヲ議長ニ推シタリ同氏ハ客年
 十一月二十四日ノ第八回會議以來議長トナレリ
 委員會ハ本年三月ノ最終會議ニ至ル迄總計三十四回ノ會合ヲ重ネタ
 ルカ三月九日議長「ワレンベルグ」氏ノ名ヲ以テ賠償委員會ニ報告
 書(註一)ヲ提出シタリ

第一節 賠償委員會之組織

賠償委員會は、三月十三日ノ會議ニ於テ右報告審查ノ上
 (イ) 詳細ナル審查ハ後日ニ譲リ右報告書ヲ承認ノ上倫敦協定第二
 附屬書第三項ノ規定ニ基キ引渡委員會ノ承認ヲ受クル爲同委員
 會ニ送付ノ件

(ロ) 報告書中二三ノ未済事項ノ決定ヲ俟ツ爲一定ノ期間特別委員會
 ノ權限延長方ニ關シ爲替委員會及獨逸國政府ト協議ノ件

ヲ決議セリ

賠償委員會庶務委員會ハ三月十三日ノ會議ニ於テ右報告審查ノ上
 (イ) 詳細ナル審查ハ後日ニ譲リ右報告書ヲ承認ノ上倫敦協定第二
 附屬書第三項ノ規定ニ基キ引渡委員會ノ承認ヲ受クル爲同委員
 會ニ送付ノ件

(ロ) 報告書中二三ノ未済事項ノ決定ヲ俟ツ爲一定ノ期間特別委員會
 ノ權限延長方ニ關シ爲替委員會及獨逸國政府ト協議ノ件

ヲ決議セリ

註一 分科會ノ最初ノ會合及報告書提出ノ時期ヲ舉クレハ左ノ

如シ

分科委員會	最初ノ會合ノ時期	報告書提出ノ時期
石炭	千九百二十五年一月二十日	千九百二十五年二月二十四日
運輸	千九百二十四年十二月十五日	千九百二十五年二月二十四日
石炭運輸ノ聯合委員會	千九百二十四年十二月十六日	千九百二十五年二月十六日
染料及化學藥品	千九百二十五年一月十二日	各國ノ特別協定ヲ以テ報告ニ代フ
合成染料	千九百二十四年十一月十二日	千九百二十五年二月十八日
生成物		

註二 特別委員會ハ染料ニ關シテハ關係國ノ代表者トシテ

International

トノ間ニ締結セラレ若クハ締結セラルヘ

[Faint, illegible text from the reverse side of the page, likely bleed-through or bleed-through from another page.]

第一	一九二一年四月一日	一九二一年四月一日	一九二一年四月一日
第二	一九二一年四月一日	一九二一年四月一日	一九二一年四月一日
第三	一九二一年四月一日	一九二一年四月一日	一九二一年四月一日
第四	一九二一年四月一日	一九二一年四月一日	一九二一年四月一日
第五	一九二一年四月一日	一九二一年四月一日	一九二一年四月一日
第六	一九二一年四月一日	一九二一年四月一日	一九二一年四月一日
第七	一九二一年四月一日	一九二一年四月一日	一九二一年四月一日
第八	一九二一年四月一日	一九二一年四月一日	一九二一年四月一日
第九	一九二一年四月一日	一九二一年四月一日	一九二一年四月一日
第十	一九二一年四月一日	一九二一年四月一日	一九二一年四月一日

キ協定ニ留意ス右協定ハ三年間有効ニシテ倫敦協定第二條項(二)項ニ依リ右期間内ハ染料供給ノ保障ヲ受クルモノナルカコノ點ニ關シ委員會ハ主義ノ問題トシテハ總テノ協定ヲ了知スル迄之ヲ留保ス尙之等ノ協定ハ四月中ニ開催セラルヘキ委員會ニテ審議セラルヘシ

註三 染料ニ付テハ獨逸國ハI & T協定ヲ締結シタル國ニ對シテハ千九百二十七年四月一日ニ至ル期間ニ付倫敦協定第二附屬書第二條項ノ末項ニ規定スル表ヲ作成スル權利ヲ拋棄ス但シ右獨逸國ノ權利ノ拋棄ハ同盟國側ニ於テ右期間内ニ於テ倫敦協定第二附屬書第二條項ノ(二)項ノ主張ヲナスコトヲ妨クルモノニアラサルモノトス

第十六 實物辨濟部特別委員會ノ各國染料協定可決

實物辨濟部特別委員會ハ四月二十一日會合シ英佛伊白國ト獨逸側トノ間ニ締結セラレタル協定ヲ審議ノ結果之ヲ可決シタリ

本邦ト獨逸側トノ協定ニ關シテハ我方委員ヨリ從來ノ交渉ノ經過ヲ

説明シタル結果

「日本國其他染料ヲ受領スル權利ヲ有スルモ未タ協定ニ達セサル諸國ハ遠カラス協定ニ至ルモノト豫想ス若シ協定不成立ノ場合ニハ右關係國ハ倫敦協定第二附屬書第二項覺書ノ作成ヲ要求スルノ權利ヲ保持スルモノナルコト勿論ナリ」ト決議シタリ

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the word '協定' and other illegible characters.)

第十七 實物辨濟手續規定

實物辨濟特別委員會ニテ作成シタル實物引渡手續規定草案ハ賠償委員會ノ審議ヲ經テ引渡委員會ニ送付セラレタルカ引渡委員會ハ巴厘ニ於ケル會議ニテ該案ヲ審議ノ結果僅少ノ修正及留保ヲ爲シ大体之ヲ承認シタルカ同規定ハ愈々五月一日ヨリ實施セララルコトトナレリ

（以下は極く淡く、ほとんど不可読な文字列が並ぶ）

賠償
荒川
河野

賠償勘定ヲ利用シ無線機械取得方ニ関スル件
賠償物件トシテ賠償金特別會計ニ帰属セシムルコト
ノ案實施ノ結果賠償勘定本邦割當額左表ノ如ク

（庫）大正十四年六月五日

第一年度	四百九十四万金麻	（確定）
第二年度	六百五十万金麻	（見込）
第三年度	五百六十万金麻	（同上）
第四年度	九百七十万金麻	（同上）
第五年度	一千五百四十万金麻	（同上）

而シテ第一年度分ニ付テハ「ベルサイユ」條約ノ條項ニ依リ昨年中生産ノ染料ニ付現在迄ニ約卅万金麻注文済ニシテ今後ハ倫敦協定ニ基キ本年一月以降生産染料ヲ取得ス可キ筈合ノ處獨逸側ハ倫敦協定中ニ本年以降生産ノ染料ニ付テハ商慣習條件ニ依リ引渡云々ノ規定アルヲ理由トシ本邦ノ獨逸染料輸入制限撤廃ヲ引渡ノ前提條件トシテ要求スルニ至リ目下種々交渉中ナルモ容易ニ解決ノ見込立

賠償勘定ノ利用ニ無線機械取得方ニ関スル件
賠償物件トシテ賠償金特別會計ニ帰属セシムルコト
ノ案實施ノ結果賠償勘定本邦割當額左表ノ如ク